

みんなの福祉のまちづくり憲章

平成25年7月5日 制定社会福祉法人水戸市社会福祉協議会

わたくしたちは 住み慣れた地域の福祉を増進し ふれあいと優しさ溢れる 福祉のまち「水戸」を目指します。

- **I** みんなで 安全安心な暮らしにしよう
- **I** みんなで 子供たちを健やかに育てよう
- I みんなで 互いを理解し尊重しよう
- I みんなで 絆を大切にし支え合おう
- I みんなで 福祉のまち「水戸」 にしよう

「みんなの福祉のまちづくり憲章」は、市民の皆さんに日頃から福祉に関心を寄せていただき、福祉のまちづくりに目を向け、みんなの力で福祉のまち水戸を目指していこうと、水戸市社会福祉協議会が平成25年7月5日に制定いたしました。この憲章は、5項目の憲章文で構成し、市民みんなの願いとして取り組んでいきたいことを表しています。憲章5項目は、水戸市社会福祉協議会が策定した「福祉のまちづくり推進計画(第2次水戸市地域福祉活動計画)」の4つの行動目標を基とし、同計画の基本目標を最終的に5項目で表現したものです。



発刊にあたって

社会福祉法人水戸市社会福祉協議会 会 長 保 立 武 憲

水戸市社会福祉協議会は、民間の社会福祉団体として昭和28年7月に発足以来65周年、昭和44年に社会福祉法人格を取得してから数えて50年という記念の年を迎えました。そしてその間、地域の皆様方や関係機関の多くの皆様方のご理解ご協力をいただきながら、地域福祉活動の中核として事業推進に努めてまいりました。これもひとえに多くの皆さまのご協力の賜と改めて感謝を申し上げる次第です。また、こうして本記念誌を発刊できましたことに対しまして、改めて深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

さて、この50年の歴史を振り返ってみますと、本会や社会福祉を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。今日の我が国は超高齢社会を迎えるとともに少子化による急激な人口減少社会の進行、また、ライフスタイルや価値観が変化するなかで貧困、低所得、引きこもりなど新たな社会問題が深刻化しています。

そのような状況の中,国においては地域がみんなで支え合おうという「我が事・ 丸ごと」の地域共生社会づくりを推進するとともに,全国社会福祉協議会において も社協に求められる実践について,「地域共生社会の実現に向けた社協の事業・活 動の展開に向けて」を示すなど,大きな変化がありました。

本会においては、めまぐるしく変化する社会情勢の中で、平成28年4月の水戸市社会福祉事業団との法人合併や、県央地域成年後見支援事業の実施、生活支援体制整備事業の受託運営、生活困窮者自立相談支援事業の受託運営、第3次地域福祉活動計画の策定、災害ボランティアセンターなど、様々な活動を進めて参りました。

今後も、市民の皆さまの様々な福祉ニーズに応えられるよう各種福祉サービスの 基盤整備に取り組み、「誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまち水戸」実現 のため努力して参りますので、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上 げます。

目 次

ご祝辞		4
社会福祉法人茨城県社会福祉協議会会長	森戸 久雄	
水戸市長	高橋 靖	
水戸市議会議長	安藏 栄	
社会福祉法人茨城県共同募金会会長	岩上 堯	
水戸市社会福祉協議会支部長連絡協議会会	法長 井坂 照夫	
水戸市民生委員児童委員連合協議会会長	大内 元一	
水戸市住みよいまちづくり推進協議会会長	堀井 武重	
水戸市地域女性団体連絡会会長	久信田もと子	
50年のあゆみ		13
水戸市社会福祉協議会のあゆみ		
水戸市社会福祉事業団のあゆみ		
社協の事業紹介		27
総務企画部門		
地域福祉部門		
相談支援部門		
生活支援部門		
就労支援部門		
		67
歴代役員・評議員一覧		
社会福祉協議会		

歴代役員・評議員一覧
社会福祉協議会
旧社会福祉事業団
社会福祉協議会組織図
社協歴代支部長一覧
第3次地域福祉活動計画概要
東日本大震災の発災とその対応
令和元年台風19号による災害とその対応





祝辞

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会 会長 森 戸 久 雄

このたび、水戸市社会福祉協議会が法人化50周年を迎 えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴会が、昭和44年3月に法人認可を受けられてから、 50年の永きにわたり、地域福祉の向上に中核的な役割を 果たされてこられたことは、歴代の会長をはじめ、役員並 びに関係者の皆様方のご努力と熱意の賜物であり、衷心よ り敬意を表する次第です。

近年、少子高齢化の進行による家族の変化や地域におけ る人間関係の希薄化などを背景に、孤立化が進む社会福祉 の現場では、これまでの枠組みでは対応しきれない様々な 課題が顕在化してきています。

これらの課題に対し、貴会では「福祉のまち水戸」の実 現に向け、市民の福祉意識の醸成を図るとともに、社協支 部を中心とした活動を進めるほか、あらゆる生活課題を受 け止めるため、専門職による相談・支援体制を整えるなど、 誰もが安心して自分らしく暮らせる地域づくりに尽力され ており、大変心強く感じております。

私ども茨城県社会福祉協議会といたしましても、今後と も貴会と連携を図りながら、変化する時代に沿った地域福 祉のさらなる充実に向け、努力してまいります。

結びに、法人化50周年を契機に、貴会の益々のご発展 と皆様のご活躍をお祈り申しあげまして、お祝いの言葉と させていただきます。



祝辞

水戸市長 高橋 靖

このたび、水戸市社会福祉協議会が法人化50周年を迎 えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴協議会は、設立以来、長年にわたり地域福祉の向上の ためにご尽力されてこられました。これもひとえに、歴代 の会長をはじめ関係者の皆様のご努力の賜物と、深く敬意 を表し感謝申し上げます。

近年、社会情勢やライフスタイルの変化等により、人と 人との触れ合う機会が減少し、地域住民同士のつながりや 助け合いの精神が希薄になってきております。その一方で、 地域が抱える課題や問題は多様化かつ複雑化しており、そ れらを「我が事・丸ごと」として捉え、解決する地域共生 社会の再生が急務となっております。

住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができ る社会の実現に向けて、貴協議会が進める地域に密着した 活動は、今後、ますます重要性を増すものであり、地域福 祉活動の中核として、引き続き、市民に寄り添いながら、 本市の地域福祉の推進にご尽力いただきますよう、よろし くお願い申し上げます。

結びに、水戸市社会福祉協議会のますますのご発展と保 立会長をはじめ関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念いた しまして、お祝いの言葉といたします。



法人化50周年を祝して

水戸市議会議長 安 藏 栄

この度、水戸市社会福祉協議会が法人化50周年を迎え られ、この佳節に記念誌を発行されますことに、心からお 慶び申し上げます。

また、長年にわたり活動に携わってこられました会員の 皆様のご尽力に対しまして、深く感謝と敬意を表する次第 です。

貴協議会におかれましては、昭和27年に発足し、昭和 44年に社会福祉法人として設立認可を受けて以来、水戸 市民の福祉活動を推進するため、住民に必要な福祉サービ スの提供や、地域活動への参加促進を積極的に行ってこら れました。

近年、社会構造の変化により、働き方や家庭の機能が変 容し、人びとの生き方や、暮らし方が多様化したことによ り、社会福祉サービスに関するニーズも増大しています。

社会福祉に関する要望の増加や課題の深刻化により、貴 協議会におかれましても、これまで以上に役割が拡大し、 社会的責任が大きくなっていくことが予想されます。

この50周年を契機として、貴協議会の幅広いネットワー クと住民参加の強みを最大限に活かし、誰もが幸せな日々 を送ることができる「福祉のまちづくり」を実現するため の推進役として、ますますご発展されますようご祈念申し 上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



「つながる」「支え合う」

社会福祉法人茨城県共同募金会 会長岩上葉

このたび、水戸市社会福祉協議会が法人化50周年を迎 えましたことを心からお慶び申しあげます。

貴会はこれまで地域福祉活動を積極的に推進されてきた ところであり、関係者の皆様の御努力に対しまして深く敬 意を表します。

さて、令和という新しい時代を迎え、私たちは本格的な 人口減少、超高齢社会の到来に向き合っていかなければな りません。加えて、孤独死、引きこもり、貧困など地域が 抱えている様々な課題が顕在化してきています。

こうしたなか、今全国で「支え手」「受け手」という一方 通行の関係を超えて支え合う地域共生社会づくりが進めら れています。

そのためには、なによりも一人ひとりが課題を自分たち の問題と捉え、課題解決の意識と主体性を持ち、地域に住 む人同士が「つながり」「支え合う」仕組みをもういちど構 築していくことが大切です。

地域の課題解決力を私たちが身に着けていくためには. 住民と各機関・団体とがたゆまぬ努力を続けていくことが 必要であり、貴会が、この大きな課題に主体性を発揮し、 積極的に各事業に取り組まれておりますことに大いに期待 するものです。

結びに、新しい時代の地域福祉の推進に向け、皆様の益々 のご活躍を心から御祈念申し上げまして、お祝いの言葉と させていただきます。



水戸市社会福祉協議会 法人化50周年を祝して

水戸市社会福祉協議会 支部長連絡協議会 会長 井 坂 照 夫

この度、水戸市社会福祉協議会が、法人化50周年を迎 えられますことに心からお慶び申し上げます。

創設以来今日まで、市民の福祉向上のためご尽力されま した、保立会長をはじめ役員会員の皆様に、感謝と敬意を 表する次第です。

また, 近年は人口の減少, 少子高齢化の進む中, 地域の 人々の繋がりの希薄化により地域社会が大きく変わるとと もに、将来への不安や様々な住民の生活課題、福祉課題も 多様化し深刻化しています。

各地で自然災害も相次いで発生しており、このような時 こそ地域での住民同士の助け合い支え合いの仕組み作りが 大切となる中、支部長連絡協議会では本年度から34支部 となり、役員研修会や生活支援体制整備事業についての勉 強会や交流会などを行い、地域に合った福祉活動ができる 様に、水戸市社会福祉協議会・各種関係団体と連携し、『誰 もが安心して暮らしていけるまちづくり』に向けて更なる 努力をし、取り組んでいるところです。

50周年を迎え水戸市社会福祉協議会の益々のご発展と、 携わる皆様のさらなるご活躍を心よりご祈念し、お祝いの 言葉といたします。



水戸市社会福祉協議会 法人化50周年を祝して

水戸市民生委員児童委員連合協議会 会長大内元

このたび、水戸市社会福祉協議会が法人化50周年を迎 えられましたことに、心からお慶び申し上げます。

貴法人は、昭和44年の法人化以来『福祉のまち水戸』の 実現を目指し、地域福祉の推進をはじめ、高齢者や障害者、 そして子ども、生活困窮者の支援に加え、権利擁護、福祉 施設の管理等、地域に根差した多様な事業を展開し、今日 まで発展されてこられました。

改めまして、敬意を表する次第でございます。

昨今の社会状況において, 超少子高齢化, そして個人の 意識変化が急速に進み、地域における、人と人とのつなが りが希薄化してきております。

その結果、規範意識や社会性の低下、また思いやりの心 の欠如などが指摘されており、早急な対応が必要となって おります。

私ども水戸市民生児童委員連合協議会といたしまして も、貴法人の活動に協力させていただきながら、地域福祉 を支える一員として、これらの問題に正面から向き合い、 『福祉のまち水戸』が実現できるよう、全力で取り組んで まいる所存です。

結びに、法人化50周年という輝かしい歴史を礎に、貴 法人が益々ご発展されますよう, ご祈念申し上げまして, お祝いの言葉といたします。



法人化50周年記念を祝して

水戸市住みよいまちづくり推進協議会 会長 堀 井 武 重

このたび、水戸市社会福祉協議会が法人化50周年を迎 えられましたことを、心からお喜び申し上げます。今日ま での半世紀にもわたる長い間、会員をはじめ関係各位のご 努力とご活躍により、創設以来幾多の苦難を乗り越え実績 を残されてきたことに対しましても、改めて敬意を表する 次第です。

貴協議会は昭和27年に設立し、同44年に社会福祉法人 としての設立認可を得られてから、社会福祉活動の発展の ため、地域福祉の中心的な役割を担ってまいりました。

近年は特に、人口減少と超高齢化が急速に進行し、福祉 課題の多様化などによって社会福祉を取り巻く環境が年々 厳しい状況に置かれていることから、このような環境変化 に迅速に対応することが求められております。

よって、これらの課題を克服するためにも、社会福祉団 体や地域の町内会・自治会をはじめ、民生委員や民間の事 業者などが連携し、地域が一体となって取り組んでいかな ければならないと思っています。

結びに、水戸市社会福祉協議会が今後ますます充実発展 されますことを心から祈念いたしまして、 記念誌発行に寄 せてのお祝いのことばといたします。



祝辞

水戸市地域女性団体連絡会 会 長 久信田 もと子

水戸市社会福祉協議会が法人化50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。貴協議会におかれましては、昭和44年に社会福祉法人としての認可を受け、社会情勢が変化するなか、長きにわたり地域福祉活動を展開されてこられた歴史に敬意を表します。

現在は、すべての小学校区に水戸市社会福祉協議会の支部が組織され、地域福祉の推進役として活動を展開し、地区敬老会や一人暮らし高齢者食事会、三世代ふれあい事業、各種研修会等を実施されており、女性会も福祉員として地域の皆様との交流を大切に支部の運営に関わっております。

人口減少、超高齢化が進行するなかで、社会環境の変化に伴い生活様式も多様化し、住民相互のつながりも希薄になってきております。誰もが住み慣れた地域で安全安心に暮らしていけることを願っております。地域福祉は人と人とのつながりをもって市民みんなが取り組むことにより、「福祉のまち水戸」を目指して今後ともご尽力賜りますようお願い申し上げます。

結びに、水戸市社会福祉協議会の更なるご発展を遂げられますことを祈念いたしましてごあいさつといたします。





50年のあゆみ

水戸市社会福祉協議会のあゆみ

昭和28年7月 水戸市社会福祉協議会の創立(事務局職員1名) 伊藤建之助氏 初代会長に就任



昭和37年4月 世帯更生資金の貸付

昭和42年4月 心配ごと相談所の開設

昭和42年9月 精神薄弱児生活相談所「あおい園」の開所(昭和47年7月,あゆみ園に合併)

昭和43年4月 生活つなぎ小口資金貸付事業開始

昭和44年3月 厚生省から水戸市社会福祉協議会の社会福祉法人認可(事務局職員3名)

昭和44年4月 善意銀行の運営

昭和44年7月 社協会員会費募集運動を開始(一戸100円)

昭和45年7月 事務局を社会センターに移転

昭和45年9月 敬老会に協力

支部社協設置運動

第1回水戸市社会福祉大会の開催 昭和46年3月

昭和46年7月 川角豊太郎氏 会長に就任



昭和47年4月 長寿手帳の発行(昭和56年まで)

> 独居老人宅に愛のベルの設置 通学児童に通学班長用腕章の配布

紙おむつ等の斡旋

社協広報紙「みとの福祉」創刊 昭和48年3月





昭和49年6月 老人福祉センター「八幡荘	この建設と連宮
----------------------	---------

昭和49年7月 第1回金婚祝賀会の開催

昭和50年9月 事務局を文化福祉会館内(水戸市五軒町1-2-12)に移転

昭和51年4月 結婚情報交換センター開設(現・結婚相談所)

昭和52年4月 社会奉仕活動センター設置

昭和53年4月 老人福祉センター「柳堤荘」の受託運営

県社協が福祉活動協力校を指定

米寿該当者慶祝事業開始 昭和54年4月

昭和54年6月 愛の定期便事業開始

社協会費を100円から200円に改定 昭和54年7月

ハンディキャブ [青い鳥号] (車いすのまま乗れる構造を持った自動車)の貸 昭和56年4月

し出しを開始

同和対策福祉資金の貸付

昭和56年11月 国際障害者年を契機とした「第1回ふれあいのひろば」並びに、「友愛のつどい」

が開催された

昭和57年5月 広報紙の名称を「みとの福祉」から「みんなのしあわせ」に改称

老人福祉センター「あかね荘」の受託運営 昭和57年7月

第1回福祉バザーを開催 昭和58年6月

昭和58年7月 痴呆性老人対策事業の実施

昭和58年11月 家庭奉仕員派遣事業の開始

第1回水戸地区ボランティアのつどい 昭和59年6月

昭和59年7月 社協会費を200円から300円に改定

[福祉ボランティアの町づくり事業(通称・ボラントピア事業)]を、厚生省の 昭和60年4月

指定を受けて開始(事務局職員7名)

水戸市社協が福祉活動協力校を指定(大成女子高, 双葉台中学校, 柳河小学

校の3校)

老人相談開始

青少年健全育成PR看板の設置

昭和60年5月 おもちゃライブラリー [みとおもちゃ箱] を開設 (柳堤荘内)

> 車イスの無料貸出し開始 痴呆性老人介護研修会の開催

昭和61年4月 支部長連絡協議会発足

> モデル支部社協の指定 地域福祉懇談会の開催

昭和61年8月 那珂川増水による水害発生(被災2,800世帯)

昭和62年2月 ボラントピア事業によるボランティア基金の募集開始

社会奉仕活動センターをボランティアセンターに名称変更

昭和63年4月 中国帰国者日本語教室事業開始

昭和63年5月 支部長会から支部長連絡協議会に名称を変更

昭和63年7月 タウンフェスティバルin水戸の開催

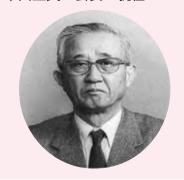
昭和63年8月 ボランティアセンターのシンボルマークと標語を募集

昭和63年12月 ボランティアセンターのシンボルマークと標語を決定

平成元年6月 ボランティア基金1億円の完遂

みとおもちゃ箱を2ヶ所で開設(柳堤荘, サン・アビリティーズ)

中山正氏 会長に就任 平成元年7月



平成2年1月 福祉を考える集いの開催

平成3年4月 ふれあいのまちづくり事業(7年度補助終了)

・地域ケアシステム推進事業開始

・ひとり暮らし老人給食サービス開始

・特別法律相談開始

ガイドヘルパー派遣事業

平成4年4月 社会福祉法人常澄村社会福祉協議会と合併

水戸市常澄老人福祉センターの受託運営

平成4年7月 事務局を2係制とする(庶務係・地域福祉係) 平成7年1月 阪神・淡路大震災発生(職員1名派遣)

平成7年3月 郡司勝美氏 会長に就任



平成7年4月 第1次水戸市地域福祉活動計画「みと・未来しあわせプラン21」を策定



平成8年4月	みんなのしあわせをA4版(8ページ)に改訂
平成9年4月	福祉機器リサイクル事業の受託運営
平成9年6月	社協一般会員会費を300円から500円に改定
平成9年7月	ホームヘルパーステーションを市内6ヶ所に設置
平成10年3月	介護保険制度検討委員会設置 栃木県北部の集中豪雨や台風 4 号の影響により那珂川が増水し、水害が発生 (被災 550 世帯)
平成10年8月	水戸市ボランティア連絡協議会の設立 (48サークル) 栃木県北部の集中豪雨により那珂川が増水し、周辺地域に水害が発生 (被災 550世帯) 災害ボランティア活動対策本部を設置し、援助活動を実施
平成11年2月	事務局を3係制とする(庶務係・地域福祉係・在宅福祉係)
平成11年4月	インターネットホームページの開設(運用開始)

平成11年9月 水戸市社会福祉協議会在宅福祉サービスセンターの設立

平成12年3月 社協法人化30周年記念誌の発行





介護保険制度により、介護(支援)事業者としてサービスを開始(事業への参入) 平成12年4月

平成13年1月 水戸市福祉ボランティア会館を市より運営受託し、法人事務局を福祉ボラン ティア会館内に移転(水戸市赤塚1-1・ミオスビル2階)



水戸市福祉ボランティア会館

平成14年4月 日常生活自立支援事業を県社協から受託

平成16年11月 新潟県中越地震が発生し職員の現地派遣を実施(小千谷市2名,長岡市2名)

平成17年2月 社会福祉法人内原町社会福祉協議会と合併

平成20年4月 水戸市南部老人福祉センター「ふれしあ」の受託



平成22年3月 福祉のまちづくり推進計画 (第2次水戸市地域福祉活動計画)を策定



平成22年6月 岩上堯氏 会長に就任



平成23年3月 3月11日に東日本大震災が発生(水戸市で震度6弱を観測,最大震度は7)し, 市内全域に甚大な被害をもたらした

平成23年4月 ふれあいサロン及び子育てサロンへの助成開始

平成23年 東日本大震災被災地社協支援のため、いわき市災害ボランティアセンターへ 7月~9月 職員の現地派遣を実施(2名)

平成23年11月 水戸老人福祉センター「八幡荘」を老朽化に伴い閉所

平成23年12月 水戸市末広老人福祉センター「あじさい」の受託



平成26年7月 保立武憲氏 会長に就任



平成27年3月 水戸市社会福祉協議会と水戸市社会福祉事業団の役員による合併協議会を設 立, 3回にわたり両団体の合併を検討

生活困窮者自立相談支援事業を市から受託し、水戸市役所三の丸臨時庁舎内 平成27年4月 で事業開始

関東・東北豪雨災害の発生 常総市災害ボランティアセンター運営支援に延 平成27年9月 べ59名の職員を派遣 水戸地区社会福祉法人連絡会の設立

平成27年11月 水戸市社会福祉協議会と 水戸市社会福祉事業団の 合併契約調印式を実施



水戸市社会福祉協議会と水戸市社会福祉事業団が合併。新生水戸市社会福祉 平成28年4月 協議会としてスタート これにより事務局を5課(総務企画課,地域福祉課, 相談支援課, 生活支援課, 就労支援課)体制として運営を開始



「みんなのしあわせ」平成28年6月15日号から

平成28年4月 権利擁護サポートセンター事業 (成年後見支援事業) 開始 生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業を市から受託し、水戸市福祉ボ ランティア会館内で事業開始

平成29年4月 地域見守り活動協働事業モデル事業の開始 定住自立圏構想による県央地域成年後見支援事業の開始

平成30年4月 生活支援体制整備事業を市より受託

平成30年6月 熊本地震災害により職員の現地派遣を実施(1名・熊本県益城町)

平成30年8月 水戸市高齢者生活支援サポーター養成研修事業の受託 平成30年7月豪雨災害により職員の現地派遣を実施(1名・広島県呉市)

県央地域成年後見支援事業による市民後見人及び法人後見受任団体養成講座 平成30年8月 の開催(全日程11回:52時間)



市民後見人養成講座修了式 (H30.10.23)と修了生

平成31年3月 社協法人化50年となる

令和元年10月 台風19号により被災された世帯への支援及び被災世帯へのボランティア派遣 を行うため、10月14日に水戸市災害ボランティアセンター(水戸市赤塚 1-1・水戸市老人福祉センター長者山荘)を設置 (被災地域は13学区, 2,846 世帯、8.125人)

> ※第50回水戸市社会福祉大会は災害ボランティアセンター運営のため開催を 中止(法人化50周年記念事業及び市制施行130周年記念協賛事業)

令和元年11月 第31回愛パーク祭は災害ボランティアセンター運営のため開催を中止(法人 化50周年記念事業及び市制施行130周年記念協賛事業)

水戸市社会福祉事業団のあゆみ

自:昭和62年1月20日~至:平成28年3月31日 (平成28年4月1日水戸市社会福祉協議会と合併)

1歷代理事長

昭和62年2月 佐川一信氏 初代理事長に就任



平成5年10月 岡田広氏 理事長に就任



平成15年4月 加藤浩一氏 理事長に就任



平成17年4月 平山恒夫氏 理事長に就任



平成18年6月 出澤裕史氏 理事長に就任



平成20年4月 鈴木重紀氏 理事長に就任



平成23年4月 飯田克雄氏 理事長に就任



平成27年4月 秋葉欣二氏 理事長に就任



2事業の推移

昭和62年1月 水戸市社会福祉事業団の法人認可

昭和62年2月 社会福祉法人水戸市社会福祉事業団の設立

昭和62年4月 身体障害者通所授産施設のぞみ(現・身体障害者就労支援施設のぞみ),福祉 作業所むつみの受託



のぞみ



むつみ

昭和63年4月 老人福祉センター及び老人デイサービスセンター葉山荘の受託

精神薄弱者通所授産施設はげみ(現・知的障害者就労支援施設はげみ),身体 平成元年4月 障害者福祉センターつどいの受託





はげみ つどい

平成3年3月 老人福祉センター及び老人デイサービスセンター長者山荘の受託

平成3年8月 身体障害者療護施設いこい (現・身体障害者生活支援施設いこい) の受託



平成6年4月 精神薄弱者通所授産施設分場みのり(現・知的障害者就労支援施設みのり)の 受託

平成6年10月 空ビン類・缶類選別処理事業の受託



小吹リサイクルセンター(現・就労支援事業所水戸市リサイクルセンター)の 平成7年4月 運営(水戸市小吹清掃工場内)

平成8年4月 障害者教養文化体育施設 水戸サン・アビリティーズの受託



市町村障害者生活支援事業 (現・障害者生活支援センター) の受託 平成8年10月

平成9年4月 設立10周年記念式典の開催・市民会館 平成12年12月 老人デイサービスセンターあかつか及び身体障害者デイサービスセンターあ かつかの受託, ワークスあかつか(現・就労支援事業所あかつか)の受託



デイサービスセンター送迎

平成13年4月 知的障害者生活支援事業(現・障害者就業・生活支援センター事業生活支援 等事業(県))の受託

平成14年7月 障害者就業・生活支援センター事業の受託(雇用安定等事業(国))

平成15年4月 水戸市酒門老人ホーム白寿荘の受託

平成16年4月 知的障害者通所授産施設みのり (現・知的障害者就労支援施設みのり) の受託



平成17年4月 知的障害者等生活訓練事業の受託

平成18年4月 介護保険認定調査事業の受託

平成21年4月 水戸市開江老人ホームの受託



平成24年4月 一時預かり事業所 あかつかスマイルキッズの受託



平成24年7月 訪問サービス事業所みらいの設置



行動援護

平成24年10月 障害者虐待防止センターの受託

計画相談支援室ケアプランセンターりぼんの設置 平成26年7月

平成27年3月 酒門老人ホームと開江老人ホームの統合により酒門老人ホーム閉所

平成28年3月 老人デイサービス事業 (葉山・長者山) の廃止

平成28年4月 社会福祉法人水戸市社会福祉協議会と合併

水戸市総合福祉作業施設について

コミュニケーションや働くことに課題を持つ方の自立と社会参加の促進、生活の質の向 上を目的に通所事業を行います。また、各種相談を承けるとともに、本人、家族が自分ら しく生きることのできる支援を心がけ、総合的な福祉の増進を図ります。

この作業施設の敷地は、16,201㎡あり、水戸市の文化公園「愛パーク」として住民が自由 に利用でき、地域との交流ができるよう配慮されています。





社協の事業

総務企画部門

法人運営

社会福祉協議会は、民間の立場で社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的とし ない団体であり、昭和26年(1951年)に制定された社会福祉事業法(現在の「社会福祉法」)に基 づき設置されています。地域に暮らす皆様のほか、民生委員・児童委員、社会福祉法人、福祉 施設等の社会福祉関係者、保健・医療・教育など関係機関の参加・協力のもと、地域の人びと が住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまち水戸」の実現をめざしたさまざ まな活動を行なっています。

平成28年改正社会福祉法においては、形骸化する法人役員の行動に対し、権限と責任を法定 化し、経営組織のコンプライアンスを確保するものとされ、評議員会、理事会、監事など各機 関の役割や責任を社会福祉法に明記し、それぞれの立場から事業経営に当たる理事長(会長)、 理事に対しコンプライアンスが働く仕組みが規定されました。これに基づき、本会の運営を行っ ています。

理事は関係法令及び定款を遵守し、法人の円滑適切な運営を図ることを役割として担っています。平 成28年3月の社会福祉法人制度改革においては、福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図ることや、 社会福祉法人制度における経営組織のガバナンスの強化、事業運営の執行役と位置づけ、理事等の義務 と責任が法律上規定されました。これにより、理事会の新たな役割は、①社会福祉法人の業務執行の決定、 ②理事の業務執行の監督. ③理事長等の選定および解職を行うものと位置づけられました。理事会の業 務のうち、理事会の決定に基づいて行う日常の業務は、理事長等の専決事項とすることができますが、 それ以外の理事は理事会における議決権の行使等を通じ、社会福祉法人の業務執行の意思決定に参画す るとともに、理事長等の職務の執行を監督する役割を担っています。また、理事会が、理事長等の業務 執行状況を監督するため、理事長等は理事会に対し4か月を超える間隔で2回以上、職務執行状況及び 重要と認められる事項並びに法令に定められた事項について報告しなければならないとされています。

監事は理事の職務執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成することが規定されて います。これを遂行するため、理事会・評議員会への出席が義務付けられています。

また、一定規模以上の法人は監査法人を会計監査人として監査依頼することが義務付けられました。

評議員は、議決機関として社会福祉法人の重要事項を審査し、役員(理事・監事)の選任・解任を担う ことにより法人の運営を監督します。平成28年3月の社会福祉法人制度改革において,評議員会を法人 運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う機関として位置づけられ、すべての社会福祉法人 に対して、決議機関としての評議員会の設置が義務付けられました。これまでのように理事会の事業経 営に対する意見を述べる諮問機関としての位置づけではなく、議決機関として、①定款の変更、②理事 及び監事並びに会計監査人の選任又は解任、③予算決算、④社会福祉充実計画の承認等における議決の 中心となる機関であり、社会福祉法人が社会的に信頼される組織となるためにも、なくてはならない機 関として位置づけられました。

本会では、評議員の選任及び解任を行うための評議員選任・解任委員会を、定款第7条第7項の規定 に基づき設置しています。

今回の社会福祉法人制度改革において、評議員は、社会福祉法人の適正な運営に必要な識見を有する 者のうちから選任することとされており、評議員選任候補者の推薦及び評議員の解任の提案は、評議員 推薦規程に基づいて理事会が行い、評議員選任・解任委員会において選任・解任の可否について決議を 行うこととなっています。

委員会は、専門的事項についてこの法人の運営に参画し、或いは会長の諮問に答え、又は意見を具申 することを目的として設置しています。また、平成28年4月の社会福祉事業団との合併を契機として、 新たに施設・在宅福祉委員会及び相談支援福祉委員会を設置しています。

また、特別委員会として顕彰委員会、安全衛生委員会などを設置しており、本市において社会福祉活 動にすぐれた働きをした者及び社会福祉活動に協力援助した功績顕著な方に対する顕彰を水戸市社会福 祉大会において行っています。

他大会において行っています。		
委員会名	所管事項	
企画委員会	1 本会事業,活動に関する企画,調査及び研究に関すること。2 財政に関すること。3 福祉ボランティア会館の管理に関すること。4 顕彰に関すること。5 その他本会運営の重要事項に関すること。	
広報委員会	1 本会事業の普及宣伝に関すること。2 「みんなのしあわせ」の編集に関すること。3 ホームページの運営に関すること。	
地域福祉委員会	1 地域福祉推進事業に関すること。2 共同募金の協力に関すること。3 歳末たすけあい事業に関すること。4 福祉相談所の運営に関すること。5 老人福祉センターの運営に関すること。	
ボランティア活動振興委員会	1 ボランティアセンターの運営に関すること。2 ボランティアの育成と活動の振興に関すること。	
施設・在宅福祉委員会	1 入所施設の生活支援に関すること。2 通所施設の生活及び就労支援に関すること。3 施設指定管理に関すること。4 在宅福祉・訪問福祉事業に関すること。	
相談支援福祉委員会	1 生活福祉資金等の貸付事業に関すること。2 自立相談支援事業に関すること。3 権利擁護サポートセンターに関すること。4 障害者相談支援事業に関すること。	

広報・企画等

本会の各種事業や地域での福祉活動を広く市民に情報提供し、社会福祉への理解を図るための啓発活 動として,広報紙「みんなのしあわせ」を年4回(6,9,12,3月)発行しています。

事業の対象:水戸市民(社協賛助会員や団体会員を含む)

事業の経過

昭和48年3月:創刊号「みとの福祉」の発行(全世帯配布) B5版

昭和57年5月:第23号から名称を「みんなのしあわせ」に変更 タブロイド版

平成8年6月:第79号からA4版8ページに体裁を変更

平成13年9月:第100号の発行

平成28年6月:水戸市社会福祉事業団との合併による特大号を発行(№169)





平成28年6月号は 合併特大号を発行

創刊号から数えて 第100号の発行

インターネットホームページやSNSを活用した広報活動の展開

水戸市社会福祉協議会の概要や事業内容、ボランティア情報の掲載などをはじめとし、充実したホー ムページとするために、更新頻度を高くし常に新しい情報を発信していきます。また、フェイスブック などのSNSを活用し様々な情報をいち早く市民の皆様にお届けできるよう取り組んでいます。

事業の経過

平成11年4月:インターネットホームページの開設

平成28年4月:水戸市社会福祉事業団との合併による全面リニューアル

平成31年4月:フェイスブックを活用した新しい広報活動の展開



トップ画面(左)と検索画面の一部



社会福祉大会は、市民総参加による地域福祉活動の推進や福祉ネットワークの確立、ボランティア活 動の振興等を図ることを目的に、また、様々な福祉課題に対する研究協議の場として法人化翌年の昭和 45年3月に第1回大会を開催しました。

以来、社会福祉事業に功労のあった人々を称えるため、顕彰委員会において顕彰者を決定し、福祉大 会の席上において顕彰を行うとともに、市民総参加による地域福祉活動の推進啓発を図るため、毎年開 催しています。

また、令和元年度は、水戸市社会福祉協議会法人化50周年並びに水戸市市政施行130周年の記念大会 として開催予定でしたが、開催直前に関東地方に上陸した台風19号により多くの世帯が被災されたため 中止となりました。

事業の経過

昭和45年3月:第1回大会を、社会センターにおいて開催

平成23年11月:第42回大会は、東日本大震災で水戸市民会館が被災したことから

水戸市福祉ボランテイア会館に会場を変更して開催

平成25年10月:第44回大会から水戸プラザホテルを会場に開催



第49回社会福祉大会から(会長あいさつ)



ボランティア活動に対して、児童から高齢者に至るまでの幅広い参加が見られるようになり、活動内 容や活動に対するニーズも多種多様となったことから、少子・高齢社会、情報化社会を背景に、これら 福祉ニーズに的確に対応するため、水戸市社会福祉協議会ボランティアセンターや保健・医療・福祉の 複合型施設との緊密な連携のもと、ボランティア活動やネットワークの拠点施設として、一層のボランティ ア活動振興を図っていくものとして、水戸市におけるボランティアの育成や活動への参加促進、活動の 情報提供や相談機能の充実、ボランティアや市民の交流の場の提供等を実施する場として受託運営を行っ ています。

事業の対象:水戸市民

事業の経過

平成13年1月:水戸市福祉ボランティア会館 (MIOS内) を受託運営

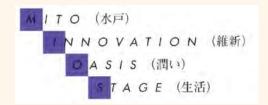


水戸市福祉ボランティア会館(2階部分)



オープン式典





ミオスとは、MITO(水戸)INNOVATION(維新)OASIS(潤い)STAGE(生活)の頭文字をとった愛称です。 1階の商業施設,2階の公益施設,その他老人ホームや分譲マンション等が整備された14階建の多機能複合 施設です。



会館パンフレット(会館内見取図)より

地域福祉部門

支部は、福祉のまちづくりを推進するため、会員の募集活動、福祉ニーズの把握とボランティア活動 の推進,地域住民の福祉意識の啓発,共同募金(歳末たすけあい募金を含む)運動への協力など,地域福 祉活動の事業推進と本会の組織強化を図ることを目的として、法人化翌年の昭和45年3月に支部の設置 が進められました。概ね小学校区域を単位とし、地区内の会員を以って組織されています。平成4年の 常澄村合併では常澄地区に、平成17年の内原町合併では内原地区にそれぞれ支部が設立されており、現 在は市内に34支部が設置されて活動を行っています。

また、支部活動の充実強化と支部間の連携並びに情報交換を図るための定期的な支部長連絡協議会の 開催や地域福祉コミュニティの活性化を支援し、実践的な活動を促進することを目的とした「みとの福 祉を考える座談会」を開催して活動の充実を図るなど、様々な問題解決に取り組んでいます。

事業の経過

昭和45年3月:支部社協の設置を推進 昭和63年5月:支部長連絡協議会の設立

令和元年6月:支部長連絡協議会の支部を,事業運営及び支部活動に対し円滑に行うことを目的とし

て5ブロックから8ブロックに分けて充実を図り協議しています。



支部長連絡協議会



みとの福祉を考える座談会

本会の会員会費制度は、昭和44年8月に会員規則が制定されたことに伴い、昭和45年に趣意書を作 成し開始されています。法人の目的に賛同する一般市民の協力を広く求め、当初一般会員として100円 以上の協力を得ていましたが、地域福祉活動の強化と高齢化に伴う地域社会における様々なニーズに対 応し、福祉サービスの向上を図るため、一般会員会費を一世帯500円に改定し現在に至っています。

事業の対象:水戸市在住の方及び水戸市に事業所を有する団体等で、社会福祉法人水戸市社会福祉協議 会の定款第1条の目的に賛同し入会した方。

> ・抜粋:この社会福祉法人は水戸市における社会福祉事業の能率的運営と組織的活動を促 進し地域社会福祉の増進を図ることを目的としています。

事業の経過

昭和45年8月:普通会員年間一口100円以上 昭和54年:普通会員年間一口 200円に改定 昭和59年:普通会員年間一口300円に改定

昭和63年:会員の区分、会費等について会員規程の改正を行い会員の充実強化を図る。

平成9年:一般会員会費を300円から500円に改定

特別会員 年間1,000円以上 団体会員 年間3,000円以上 賛助会員 年間5.000円以上



令和元年度会員会費募集チラシ

住民主体の助け合い活動が推進されるよう、推進員として生活支援コーディネーターを配置し、地域 住民, 行政, 各種団体, 企業等と連携しながら, 地域課題を協議する場(協議体)をつくり, 地域の支え 合いの仕組みを構築します。多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を 一体的に図って行くことを目的としています。

事業の対象

行政及び社協支部、企業・NPO法人や各種団体、地域住民を含む地縁団体等の地域社会から孤立しが ちな住民の方々を、近隣住民を含めた市民及び関連機関で見守り、日常生活上の課題が発生した場合、 又は災害発生時に支援の基盤となる居住地での支えあい、助け合いへ向けて見守り活動を行います。

事業の経過

平成30年4月:水戸市より受託,生活支援コーディネーターを2名配置し,随時,地域住民を含む地 縁団体等の関係機関・各種団体との連携を図る。

5月:社協支部、地域住民、福祉専門職を対象に地域支え合い活動勉強会の開催(水戸市が 設定する日常生活圏域は概ね中学校区8圏域ごとに地域支え合い活動ワークショップ を開き、本事業の理解と啓発活動の充実を図る)

平成31年1・3月~:水戸市高齢者生活支援サポーター養成研修の開催や協議体(国田・双葉台地区) の設置

> 茨城県社会福祉協議会主催「みんなのしあわせづくりを進める研究会」に参加し 県内社協職員と地域福祉活動に関する手法を学ぶ。



地域の課題共有の場 (これからの双葉台プロジェクト会議)



地域支え合いワークショップ (助け合いカードゲームの様子)

昭和49年7月に、結婚50年を迎えられたご夫妻を祝福する事業として、金婚祝賀会が水戸市と共催 により始まりました。当初は、偕楽園レジャーセンターに招待して開催していましたが、年々招待者が 増加していることから会場を水戸ゴールデンホール・水戸市民会館等に移して開催してきました。平成 23年の東日本大震災により水戸市民会館が被災したことを機に、現在の水戸プラザホテルに会場を移し、 以降毎年『いい夫婦の日/11月22日』を中心に開催しています。

事業の対象

該当年にご結婚され,50周年をお迎えられ水戸市内に在住のご夫妻

事業の経過 (式典会場の変更)

昭和49年7月:第1回の祝賀会は、偕楽園レジャーセンターに717組を2日に分けてご招待して開催。

昭和50年7月~:第2回~第16回 中央ビルゴールデンホール

平成2年5月~:第17回~第24回 水戸プラザホテル

平成10年5月~:第25回~ 水戸市民会館

平成23年11月~:第38回~ 水戸プラザホテル









市民が敬老の日を慶う行事として、多年にわたり社会に貢献してきたお年寄りを敬愛し、高齢者の福 祉についての関心と理解を深めるとともに、地域社会に貢献した高齢者の長寿をお祝いすることを目的 に始まりました。現在は、社協支部や地域の女性団体などが中心となって敬老の日を中心に行事を行っ ています。

事業の対象

市民の長寿を敬うため、当該年度に於いて、9月15日に満75歳以上の方を招待しお祝いする。

事業の経過

昭和45年~:社協支部に対する分担金の交付



妻里地区敬老会

高齢者慶祝事業は、米寿(88歳)を迎えられた方々を慶祝するため、本会からご本人の誕生月に祝詞を お送りして長寿をお祝いする事業です。

事業の対象: 米寿(88歳)を迎えられた市内在住の方々

事業の経過

昭和45年:米寿を迎えられた方々を対象に、会長が誕生月に訪問してお祝いを申し上げながら記念品 を贈呈する事業として開始し,対象者の増加と全地区(小学校区)に支部が設立されたこ となどにより支部を通じてお祝い品を贈呈

平成24年~:祝詞を該当者へ郵送(社協の5つの支部(国田・稲荷第一・寿・城東・飯富)においては、 支部から贈呈)

7

市内の民生委員児童委員の方の働きかけにより、ひとり暮らしの高齢者を対象として、近隣の訪問員(ボ ランティアによる協力者) が乳製品を届けながら定期的に訪問し、安否を確認するとともに見守りを行う ことを目的としています。

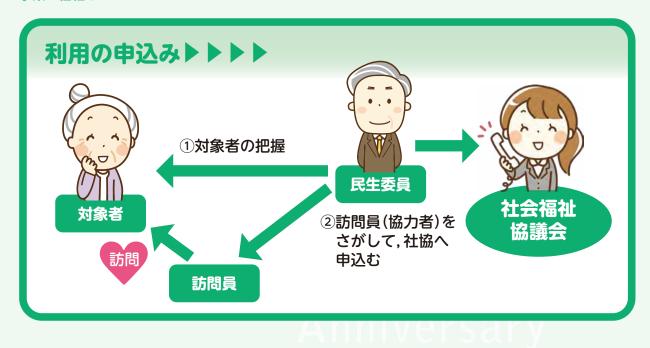
事業の対象:65歳以上のひとり暮らしの方で、身体的・精神的な不安があり、見守りが必要な方

事業の経過

昭和54年6月:市より事業委託,70歳以上の一人暮らしの方を対象

昭和59年4月~:対象年齢を65歳に引き下げて実施

事業の仕組み



老人福祉センターは、地域の高齢者に対して、各種の相談に応じ、健康増進を含む機能回復訓練など を行い、教養の向上や余暇活用の為の便宜を総合的に供与することを目的としています。入浴すること や和室等でくつろいだり、介護予防を目的とした、軽運動や講座イベント等を行っており、また、若い 世代の方との様々なニーズに対応した交流事業のもと、コミュニケーションを深めることが出来る交流 の拠点となっています。

事業の対象

水戸市内に居住する60歳以上の方

事業の経過

昭和49年7月:お年寄りの方の娯楽休養施設として、八幡町に社会福祉協議会直営の水戸老人福祉

センター「八幡荘」を建設

昭和53年6月:水戸市老人福祉センター「柳堤荘」を受託

昭和57年4月:水戸市老人福祉センター「あかね荘」を受託

平成4年3月:水戸市と常澄村が合併し、保健センターと複合施設として水戸市常澄老人福祉センター

の受託

平成18年4月:指定管理者制度の導入により、平成23年度迄受託。以降5年ごとに公募により指定

される

平成20年4月:水戸市南部老人福祉センターの受託

平成23年11月:水戸老人福祉センター「八幡荘」を廃止

平成23年12月:水戸市末広老人福祉センターを受託

平成28年4月:水戸市社会福祉事業団との合併により、水戸市老人福祉センター葉山荘及び水戸市

老人福祉センター長者山荘を受託 葉山荘・長者山荘内にサロン開設

≪利用内容≫

- ・健康相談・機能回復訓練・健康講座・介護予防の開催
- ・教室・クラブ等の教養講座・特別事業等のイベントの開催
- ·入浴施設(1回100円)
- ・施設利用(市内60歳未満及び市外の方は1回300円)



≪各老人福祉センターの名称及び住所≫

住所	電話番号
本町1-3-28	221-5761
石川2-4094-1	252-5868
千波町1677	243-5508
渡里町3201-3	228-0723
大場町472-1	240-5255
吉沢町850	247-6377
末広町2-3-13	232-0021
	本町1-3-28 石川2-4094-1 千波町1677 渡里町3201-3 大場町472-1 吉沢町850

利用時間:午前9時~午後5時

休 館 日:日曜日(南部「ふれしあ」,末広「あじさい」は水曜日)・祝日・年末年始



柳堤荘



あかね荘



葉山荘



長者山荘



常澄



南部(ふれしあ)



末広 (あじさい)

市民の日常生活のあらゆる心配ごとの相談に応じ、必要な助言を行うことを目的として開設しています。 相談は、相談員18名により毎週木曜日(午後1時から午後4時まで)に行っています。

事業の対象:水戸市民

事業の経過(相談所の変遷)

昭和44・45年:心配ごと相談所の開設

昭和46年:週2日に変更 平成3年10月:週4日に変更 平成17年~:週2日に変更 平成25年~:毎週木曜日に変更



結婚相談所は、昭和42年に開設した心配ごと相談所に持ち込まれる様々な相談の中で、来談者から「安 心して相談できる結婚相談所が欲しい」との声にこたえる形で、昭和51年に設置されました。

開設当初は、結婚情報交換センターとして毎週水曜日に行っていましたが、現在は相談員8名により 毎週土曜日(午後1時から3時まで受付け)に行っています。

事業の対象:結婚を希望する方

事業の経過

昭和51年5月:水戸市結婚情報交換センター開設

平成8年8月:水戸市社会福祉協議会結婚相談所に改称

平成23年4月:東日本大震災後一時休会

平成24年4月:水戸市社会福祉協議会結婚相談所を再開

平成28年8月:本会結婚相談所の愛称を「みとマリッジセンター(MITOマリ)」とする。



結婚相談のチラシ



高齢者や障害者、子育て中の親が、地域社会の中で安心安全に住み続けられ、「いつでも・誰でも・自 由に参加できる、楽しい仲間づくり」を支援することを目的として、平成23年に事業を開始しています。 この活動は、ご近所同士で交流することによって「顔のみえる」人と人とのつながりが出来、地域のコミュ ニティづくりや心身の健康維持などのさまざまな効果を期待できる事業のひとつです。

事業の対象

地域の人達がお互いに支えあいながら生活できる仲間づくりの場となるサロン事業団体として、本会 支部、住みよいまちづくり推進協議会、地区女性会、高齢者クラブ、ボランティアグループ、保護者、 町内会等が助成の対象

事業の経過

開始年	高齢者	子育て	新規申請	申請団体詳細
平成23年度	10	3		
24	7	1	1	社協支部運営団体 10支部
25	7	1		住み協 3団体
26	13	3	7	高齢者クラブ 15団体
27	20	3	10	女性会 3団体
28	42	3	11	町内会 26団体
29	47	6	13	ボランティア 6 団体
30	52	6	4	※令和元年度申請団体受付中
令和元年度	57	6	5	



サロンの様子 城東支部 「城東ふれあいサロン」



サロン助成事業パンフレット

水戸市民を対象に、歳末たすけあい運動で集められた募金により、援護を必要とする世帯が地域のな かで安心して暮らすことが出来る様、茨城県共同募金会の歳末たすけあい募金助成金を受けて、在宅で 援護を必要としている世帯及び、ふれあい支え合いを目的として、11月~1月までに実施する事業等に 助成をしています。

事業の対象

- ①要援護世帯援護助成
 - ア 満65歳以上のひとり暮らし高齢者
 - イ 満65歳以上のねたきり又は、認知症高齢者のいる世帯
 - ウ 義務教育で準要保護の認定を受けている世帯または、特別支援教育就学奨励費支弁区分1段階 の認定を受けている世帯
 - エ 重度障害者のいる世帯で身体障害者手帳1級(聴覚障害者は2級)又は、療育手帳A、A並びに 精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている者がいる世帯
 - オ 未就学児のみを養育している母子父子世帯
- ②歳末地域たすけあい事業助成

水戸市民を対象に地域の障害者・高齢者等の見守り活動・児童育成活動 社会参加・生きがい支援活動・食事サービス・三世代交流事業

事業の経過

昭和43年4月:(本会法人化)より歳末事業として実施、以降継続

平成16年4月:配分方法の見直し

平成31年4月:助成申請(団体)時期及び,助成申請書の見直し



共同募金運動の目的達成のために、社会福祉法人茨城県共同募金会の定める諸計画に基づき、水戸市 の地域福祉推進のため、民意を十分に反映し、次の事業を行っています。

- (1)共同募金活動の実施
- (2)共同募金ボランティア(以下「募金ボランティア」)の受け入れ、登録、研修及び活動の企画・実践
- (3) 広報・啓発活動の実施と世論の醸成
- (4)民間地域福祉に係る資金需要の把握及び配分計画案などの配分調整の実施
- (5)社会福祉協議会及び受配者との連絡並びに募金ボランティア団体等からの相談への対応
- (6)歳末たすけあい運動の推進
- (7)関係組織との連絡調整
- (8) その他共同募金運動の目的達成のために必要な事業
- (9)助成申請団体の審査及び助成業務とその評価

事業の対象

- ・共同募金の民間福祉施設・団体(各種福祉施設整備や福祉団体・NPO法人などの地域福祉活動事業, 水戸市内の地域福祉事業(高齢者、児童・青少年、障害者(児),ボランティア活動など福祉向上や社協 支部活動・広報活動) の事業
- ・水戸市内の要援護者の福祉向上や地域のふれあい事業
- ・災害時の支援活動(災害ボランティア)

事業の経過

平成18年10月:一律700円として協力を願う

平成30年4月:地域住民の参加や関係機関との協働による『新たなたすけあいの創造』の構築を図る

ため、『水戸市支会』から『水戸市共同募金委員会』へと名称を変更



令和元年度募集チラシ





街頭での募金活動



(1)ボランティアセンターの運営

市民のボランティア活動の拠点として、水戸市福祉ボランティア会館内に設置し、ボランティア活動 を始めたい方やボランティアを希望する方へ相談やボランティアに関する情報の提供などをボランティ アコーディネーターがサポートし、ボランティア活動の振興を図ります。また、各種ボランティア活動 に必要な機材の貸出し等を行っています。

・利用時間 :毎週月曜日~金曜日 9時30分~16時30分

※土曜日・日曜祝日・年末年始は休館

事業の対象

- ・地域住民、事業者、関係団体、ボランティア、行政機関等が共通の目標を持ち、協働により地域福祉 の推進に取り組みます。
 - (1)ボランティアに関するニーズの把握及び連絡調整
 - (2)ボランティア相談及び紹介
 - (3)ボランティアに関する広報啓発事業(ボランティアセンター便り)
 - (4)ボランティアの養成研修事業
 - (5)各種福祉用具体験コーナー(教室)開催(点字,手話等)
 - (6)ボランティアサークル連絡会の開催と研修
 - (7)ボランティアの情報提供及び福祉用品や器材の貸出
 - (8)物品の預託及び配分
 - (9) その他目的達成に必要な事業

事業の経過

昭和60年4月:社会奉仕活動センターの設置運営 昭和62年4月:ボランティアセンターに名称を変更 平成28年4月:休日を変更(月曜日から土曜日へ)



子どもボランティア隊の福祉機器体験



ボランティアサークル活動パネル展



(2)災害支援ボランティアセンターの運営

災害支援ボランティアセンターは、災害(地震や風水害など)が発生した時に、被災した人たちや地域 を支援するために作られるボランティアセンターです。被害者のニーズ確認やボランティアの募集・受 付けなどを行い、被災者がなるべく早く元の生活に戻れるように災害支援ボランティアと協力して生活 を支援することと,災害支援ボランティアが活動しやすいようにマッチングなどの調整を行うことが主 な役割です。

事業の目的

- (1)ボランティアに関する被災者ニーズ及びボランティア希望者のニーズ把握
- (2)ボランティア相談及び紹介
- (3)ボランティアに関する広報啓発事業
- (4)ボランティアの養成研修事業
- (5)ボランティア情報の提供及び器材の貸出
- (6)物品の預託及び配分
- (7)その他目的達成に必要な事業

事業の対象

・水戸市内の被災者・災害支援を希望するボランティア

事業の経過

平成23年3月11日:東日本大震災の発災

3月13日~5月20日:災害ボランティア活動対策本部設置

平成28年2月~平成30年12月

: 災害対応行動要綱(仮称)策定プロジェクト(災害対応基盤作り)プロジェクト会議(13回)

実施

: 災害支援ボランティアセンター運営マニュアル作成準備

平成29年度:災害支援ボランティセンター運営マニュアル作成

平成31年3月:災害支援ボランティアセンター運営訓練(社協職員対象)を実施

令和元年10月11日:台風19号災害の発生

10月14日~:水戸市災害ボランティアセンター設置



発災時に迅速かつ的確に対応できる体制を構築することを目的としてプロジェクトチームを編成。災 害時に設置、運営する災害支援ボランティアセンターの運営マニュアルを水戸市と連携して作成し、実 践的な運営訓練を行います。

(地域福祉課,総務企画課,相談支援課の職員により構成)

事業の対象:水戸市内の被災者、災害支援を希望するボランティア

事業の経過

平成28年度:災害支援ボランティアセンター運営マニュアル作成準備

平成29年度:災害支援ボランティアセンター運営マニュアル作成

平成30年度:災害支援ボランティアセンター運営訓練









災害時に迅速かつ的確なボランティア活動支援を行うため、平成29年度に「災害支援ボランティアセ ンター(設置・運営マニュアル)」を策定し、その検証のため平成31年3月4日(月)災害支援ボランティ アセンター運営訓練を実施。当日は社協職員や関係者など60名以上が出席し、運営やそれぞれの役割(ボ ランティア受付班, オリエンテーション班, ニーズ班, マッチング班, 車両班, 資材班) に分かれて災害 を想定した役割を確認。また、ボランティアによる非常食炊き出し訓練を合わせて実施。

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長から各都道府県・市民生主管部あてに、平成27年4月17日付「社 会福祉法人の地域における公益的な取り組み」についての通知があり、福祉ニーズが多様化・複雑化す る一方、福祉サービス提供方法を行政権限による措置制度から直接利用者が福祉サービス提供者と契約 に基づいてサービスを受ける契約制度へと移行されました。それに伴い、NPO法人をはじめ、株式会社 などの多様な事業主体が介護保険事業や障害者支援事業に参入するなど、社会福祉法人を取り巻く環境 は大きく変化してきました。

社会福祉法人(以下「法人」という。)のイコールフィッテイングや地域社会貢献活動の義務化といった 今後の法人経営の中で、地域福祉推進に向けた方向性や活動への情報提供及び情報の共有など、法人間 の連携を図るための連絡会運営に関し必要な支援を行うことを目的として行っています。

事業の対象

- ① 水戸市内の法人(50法人)
- ② 水戸市外の法人で、水戸市内に施設及び事業所がある法人
- ③ その他会長が認めた法人等

事業の経過

平成27年9月:設立総会

平成28年6月:役員会や定期総会を開催し、社会福祉法人の改革に伴い、法改正や地域貢献について

以降, 年1回研修会等を開催し協議

≪社会福祉法人制度の改革≫

- ①経営組織の体制強化
- ②事業運営の透明性の向上
- ③財務規律の強化
- ④地域における公的な取組みを実施する責務
- ⑤行政(所管庁)の関与の在り方



研修会の様子

相談支援部門

水戸市障害者生活支援センター ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

障害福祉サービス等を利用するための利用計画の作成や、地域生活への移行に向けた支援として、計 画相談支援・障害児相談支援、地域移行支援・地域定着支援を行っています。本人の自立した生活や抱 える課題の解決、適切なサービスの利用に向けてケアマネジメントによりきめ細かく支援するものです。

障害者相談支援事業所では、障害のある人の福祉に関する様々な問題について、障害のある人等から の相談に応じ、必要な情報の提供、障害福祉サービスの利用支援等を行うほか、権利擁護のために必要 な援助を行います。(福祉サービスを利用するための情報提供、相談、社会資源を活用するための支援、 社会生活力を高めるための支援、ピアカウンセリング、専門機関の紹介 等)

事業の経過

平成8年10月:水戸市から事業を受託

国から雇用安定等事業を受託し、働きたいと就職を希望する障害者や雇用に関わる企業からの相談及 び在職者の職場巡回をし、職場定着支援や企業からの相談に対応します。

また、県から生活支援等事業を受託し、一般就労をしながら地域生活をしていくために必要な相談助 言と生活支援を行っています。全国では334か所、茨城県内には9か所のセンターが設置されています。

業務の円滑かつ有効な実施に資するため、毎年開催している令和元年度の運営連絡会議においては、 関係機関との連携をテーマとして令和元年7月12日に約80名の参加者により開催し、事例発表やグルー プディスカッションを通して活発な意見交換が行われました。また、在職者を対象とした交流事業を、「寺 子屋塾」と題して年4回開催し、学習会及びレクリエーション活動を通して参加者同士の交流と職場定 着の促進を行っています。

事業の経過

平成14年7月:国・県から事業を受託



7月12日に開催した令和元年度運営連絡会議

生活困窮者から広く相談を受け付け、必要な情報の提供や助言を行うとともに支援の種類・内容等記 載した計画を作成し、関係機関と連携し一体的に支援を行います。

(1)生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮者から広く相談を受けつけ、必要な情報の提供や助言を行うとともに支援の種類・内容等を 記載した計画を作成し、関係機関との連携のもとに包括的な相談支援を行います。

事業の経過

平成27年4月:水戸市から事業を受託

(2)生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業

貧困の連鎖を防止することを目的に、生活困窮世帯の児童生徒に対して学習支援や居場所づくりの拡大、 保護者への進学相談を行っています。

この事業は水戸市の委託事業として、平成28年度に学習支援会「すてっぷ赤塚」としてJR赤塚駅北口 のミオスを会場にスタートしました。平成30年度からは2か所目の学習支援拠点会場となる「すてっぷ 吉沢」、令和元年度からは3か所目の会場となる「すてっぷ末広」を開設し、多くのボランティアのご協 力のもとに運営を行っています。



また, 夏休み期間中を利用した学習支援や, 受験生を応援するための対策として中学3年生を対象と した学習支援会を実施するなどの積極的な取組を行っています。

事業の経過

平成28年4月:水戸市から事業を受託



(3)相談支援及び資金貸付事業

- (1) 生活福祉資金貸付事業(昭和44年4月~, 県社協から受託) 低所得者・障害者及び高齢者に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行い、経済的自立及び社会 参加の促進を図ります。
- (2) 貸付金償還督促業務(同和対策福祉資金・生活つなぎ小口資金)(平成19年4月~) 貸付の未償還者への督促相談と償還に関する事務を行います。

認知症,知的障害及び精神障害などの理由により,判断能力に支援を要する方の権利を擁護するとと もに、権利が損なわれた場合に相談に応じ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう 支援するため、権利擁護サポートセンターを設置し、成年後見支援事業や日常生活自立支援事業を行っ ています。

また、平成29年度からは、水戸市が中心地となる県央地域9市町村(水戸市、笠間市、ひたちなか市、 那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村)による定住自立圏構想の中で権利擁護サポートセ ンターを運営しています。

(1)県央地域成年後見支援事業

県央地域成年後見支援事業は、定住自立圏構想により県央地域の市町村が連携して成年後見制度の普 及啓発、成年後見制度に関する相談支援、市民後見人の養成及び活動支援、法人後見団体の養成を行う ものです。また、首長申立てによる被後見人等に対し、成年後見を法人として受任します。

平成30年度には市民後見人及び法人後見受任団体養成講座を開催。8月から10月にかけて成年後 見制度の基礎知識や対象者理解,関係制度法律など活動に必要な知識の習得に向けて全11回52時間 のカリキュラムにより実施しました。講座は県央地域内の各市町村から19名の参加のもとに開催して います。



市民後見人養成講座初日の様子

事業の経過

平成28年4月:自主事業として事業を開始

平成29年4月:水戸市の補助事業として県央地域成年後見支援事業を開始

(2)日常生活自立支援事業

日常生活自立支援事業は、茨城県社会福祉協議会からの委託事業として、判断能力が不十分な方を対 象に、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭の出し入れ、生活に必要な利用料などの支払い手続きを 行うとともに、年金手帳や預金通帳等の預かりを行っており、平成30年度までに138名の方と利用契約 を結んで支援を行っています。

事業の経過

平成14年4月:県社協から水戸地区基幹的社会福祉協議会として事業受託

生活支援部門

生活支援部門では水戸市の指定管理7事業、補助事業1事業、自主事業2事業を運営しています。

水戸市身体障害者生活支援施設いこい ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

主に身体障害者を対象として24時間体制で、健康で充実した日常生活が送れるよう、生活全般の支援 を提供する入所施設です。日中は隣接する通所施設を利用して働いたり創作活動や交流を楽しんだりす る利用者もおり、近隣への買い物等の外出も自由です。自主的な活動が難しい重度障害の利用者には、 機能訓練やレクリエーション等の日課を提供しています。

平成3年8月12日事業開始・指定管理

○根拠法令 **障害者総合支援法に基づく施設入所支援・生活介護・短期入所

○所在地 水戸市河和田町655番地

○建物面積 1,827㎡

○定員 施設入所支援・生活介護50名, 短期入所4名(併設型)

○対象者 18歳以上65歳未満(入所時)の障害支援区分4~6(50歳以上については区分3以上)

の身体障害者手帳を持つ方で、市町村より支給決定がされている方。短期入所につい

ては障害支援区分1以上が対象。

※障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)

【日 課】

6:00	7:30		9:30	11:30	13:30	17:00	10:00
起	朝 洗	自由	入 個 機 別活動 浴	<u>屋</u> 屋 休	入 個 機 別活 動 浴 動 練	夕 洗	自 就 由
床	食 面	時間	活訓浴動練	食み	治動練	食 面	時間 電

施設長	1名	副施設長(兼務)	1名	サービス管理責任者	1名
看護師	3名	管理栄養士	1名	機能訓練指導員(兼務)	(1名)
生活支援員(兼務)	生活支援員(兼務) 33名(1名) 第		各1名	調理員	6名
嘱託内科医・嘱託整形外科	上医・嘱託理学療	各1名		•	



夏祭り

クリスマス会

自治体からの措置により比較的身辺自立のできている高齢者を受け入れ、自立生活に向けた生活支援、 保健衛生、余暇活動を提供しています。施設日課の中で利用者の自主的な生活管理を基本とし、希望の ある方は通所介護の利用も行っています。毎年8月に開催される施設の納涼祭は、地元の様々な団体が 参加し地域の夏祭りとして運営されています。

開江老人ホームは、平成15年4月に指定管理を受託した水戸市酒門老人ホーム(養護老人ホーム)が 建物の老朽化により、平成27年3月に増築後統合され現在に至りました。

昭和47年水戸市が設置運営 平成21年4月1日事業受託・指定管理

○根拠法令 老人福祉法に基づく養護老人ホーム

○所在地 水戸市双葉台4丁目254番1

○建物面積 4,368㎡

施設入所104名,短期入所6名 ○定員

○対象者 比較的身辺自立のできている高齢者等

【日 課】

6:00	7:45	8:40	10:00	12:00	13:00	13:30	18:00	21:00
起	朝	ラ	2ぉ	昼昼	2	入	タ	消
		シオ	ブ本	休食	ブ			
床	食	体 操	洁 動·	み・	洁 動	浴	食	灯

施設長	1名	生活相談員	4名	支援員	10名
看護師	2名	管理栄養士	1名	調理員	9名
事務員	1名	嘱託医	1名		



ホームの夏祭り

地域において就労が困難な重度知的障害者を対象に、作業活動や創作的活動、外出やレクリエーショ ンを提供することで、生きがいを高め在宅生活を支える支援を行う通所施設です。強度行動障害等の障 害特性に応じた適切なプログラムを提供し支援を行っています。

昭和62年4月1日事業開始・指定管理

障害者総合支援法に基づく生活介護・自立訓練(生活訓練) ○根拠法令

水戸市河和田町123番地の1 ○所在地

○建物面積 600㎡

○定員 1日あたり40名(生活介護36名, 自立訓練4名)

○対象者 水戸市及び近隣市町村に居住している知的障害者等

【日 課】

9:30	10:15	12:00	13:30	14:30	15:30
送利迎用	行作 動業	昼	創文ス作化ポ	活清動	利送用迎
到開着始	壹活 援動	食	活活ー動動ツ	終 了掃	終出 了発

所長 (兼務)	(1名)	サービス管理責任者(兼務)	(1名)	看護師(兼務)	(1名)
生活支援員	19名	調理員	1名	医師 (嘱託)	1名



創作活動





遊具を使ったレクリエーション活動

在宅の身体障害者とその家族やボランティアを対象に各種講座や地域啓発事業を行う身体障害者福祉 センターB型と、送迎、入浴、給食、介護全般を提供しながら活動を支援する生活介護を行う通所施設 です。身体障害者デイサービスセンターあかつかと同一事業所指定を受けており、主たる事業所として 業務の提携を行っています。

平成元年4月1日事業開始・指定管理

○根拠法令 身体障害者福祉法に基づく身体障害者福祉センターB型

障害者総合支援法に基づく生活介護

○所在地 水戸市河和田町123番地の1

○建物面積 428m²

◇福祉センター事業

障害者及びその家族、ボランティア ○対象者

○内容 障害者対象の文化講座開催

> 障害者関係団体に対する便宜の供与, ボ ランティアの育成事業,障害者や地域住

民に対する啓発事業



◇生活介護事業

○定員 1日あたり15名

水戸市及び近隣市町村に居住している身体障害者等 ○対象者

【生活介護日課】

9:30	10:30		12:00	13:00		14:45	15:30
送利 迎用 到開 着始	健康チェック	機能訓練	昼食		レクリエーション 創作活動等	ミーティング	利送 用迎 終出 了発

所長(兼務)	(1名)	サービス管理責任者(兼務)	(1名)
看護師兼機能訓練指導員(兼務)	(1名)	生活支援員	5名



パソコン講座



押し花講座

主に在宅の身体障害者を対象に、個々の障害に応じた介護と、送迎、入浴、給食等のサービス、機能 訓練や行事などのサービスを提供します。身体障害者デイサービスセンターあかつかは,身体障害者福 祉センターつどいと同一事業所として運営しており、両事業所の利用や行事で利用者に利便性を図って います。また、老人デイサービスセンターあかつかと共通の日課を同じ場所で提供しており、利用者が 65歳となり介護保険移行後も同じ環境で同等のサービスの継続利用が可能な施設です。

平成13年1月9日事業開始・指定管理

障害者総合支援法に基づく生活介護 ○根拠法令

○所在地 水戸市赤塚1丁目1番地

○建物面積 698㎡(老人デイサービスセンターあかつかと共有)

○定員 1日あたり15名 ○対象者 在宅の身体障害者

【日 課】(水戸市老人デイサービスセンターあかつかと共通)

9:30	10:30		12:00	13:00		14:45	15:30
送利迎用	健 康 チェ	機 創 能 作	昼		レクリ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	コーヒー.	利送 用迎
到 囲 着 始	ッ ク	訓翁練等	食		シ動き等	タイムグ	於 出 了 発

【職員】

在宅の要支援・要介護高齢者を対象に、生活相談・健康チェック・送迎・入浴・食事・機能訓練・レ クリエーション等のサービスを提供しています。また,JR赤塚駅前の商業地という環境を生かして隣接 するスーパーでの買い物の支援や、生きがい活動通所支援事業を受託し地域で暮らす高齢者の生活を幅 広く支援しています。

平成13年1月9日事業開始・指定管理

○根拠法令 介護保険法に基づく通所介護, 生きがい活動通所支援事業

○所在地 水戸市赤塚1丁目1番地

○建物面積 698㎡(身体障害者デイサービスセンターあかつかと共有)

○定員 1日あたり30名 ○対象者 要支援・要介護者

所長(兼務)	(1名)	介護員	8名	調理員	3名
生活相談員	1名	看護師兼機能回復訓練指導員	2名		

▽ 一時預かり事業所あかつか スマイルキッズ ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

保護者の子育てを支援するとともに、児童の健全な育成を図るために未就学児の一時預かり保育を行っ ています。併設する身体障害者デイサービスセンター・老人デイサービスセンター利用者との交流によ る共生型福祉事業を行い、デイサービス行事への参加により交流を行うほか、駅に隣接している立地条 件を生かし電車での外出行事なども行っています。

平成24年4月1日事業開始・市補助事業

○根拠法令 学校教育法,児童福祉法,社会福祉法に基づく第2種社会福祉事業

○所在地 水戸市赤塚1丁目1番地

○定員 1日あたり10名

○対象者 一時的に保育を要する乳幼児

所長(兼務)	(1名)
保育士	4名





つどい・身体障害者デイサービスセンターあかつか 合同クリスマス会



❸ 水戸市障害者教養文化体育施設 水戸サン・アビリティーズ ◇◇◇◇◇

障害のある方を対象に、健康増進・機能回復や交流を図ることを目的として、体育室・研修室・音楽 室の貸館を行っています。また、障害のある方との交流を目的とした講座を開設しています。建物内は バリアフリーとなっており、様々な障害児者団体や個人の障害者が利用しています。体育室では、バレー ボール、バスケットボール、バドミントン、卓球、テニスなど多種目の競技ができ、車イスバスケットボー ル、電動車椅子サッカーなどの競技も使用しています。

予約が入っていない部屋については一般市民にも貸し出しています。

平成8年4月1日事業開始・指定管理

○根拠法令 雇用促進事業団法により設置 条例に基づく教養文化施設

○所在地 水戸市見川町2563番地の705

○貸出時間 午前:9時~12時 午後:13時~17時 夜間:18時~21時(日曜日は除く)

月曜日(祝日にあたるときは翌日が休館) ○休館日

国民の祝日・年末年始(12月29日~1月3日)

○利用料 障害者手帳所持者及びその団体は無料 一般は有料

【職 員】 夜間については業務委託

所長	1名
業務員	3名



指定市町村事務受託法人として、介護保険要介護認定の新規及び更新調査を行っています。

平成18年4月1日事業開始・受託事業

○根拠法令 水戸市条例による事務受託法人

○所在地 水戸市河和田町123番地の1

○事業の対象 水戸市から委託された要介護認定調査対象者

【職員】

室長兼介護認定調査員	I	1名	介護認定調査員	Π	12名
------------	---	----	---------	---	-----

介護保険を利用する介護の必要な方や家族の要望を尊重し、心身の状態や家庭の状況を考慮しながら、 住み慣れた地域で自立した生活を営むための介護サービス計画(ケアプラン)作成や、サービスの連絡調 整を行っています。また、加齢や疾病などで介護を必要とする方の相談を受付け、介護保険認定申請等 の手続きを代行します。

主任介護支援専門員を配置する介護保険特定事業所として茨城県より指定を受けており、近隣の居宅 介護支援事業所からの相談への対応、研修等の企画運営を行い地域へも貢献しています。

平成11年10月事業開始・自主事業

○根拠法令 介護保険法に基づく居宅介護支援事業所

○所在地 水戸市河和田町123番地の1

【職員】

管理者(主任介護支援専門員) 1名 1	介護支援専門員 6名
---------------------	------------

⑪ 訪問サービス事業所みらい ※※※※※※※※※※※※※※

在宅の障害者を対象に、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援及び福祉有償運送 事業を行っています。

日常生活に必要な通院や買い物、運動などの支援、また、利用者の余暇時間を豊かにするための支援 ではショッピングモールでの買い物や外食、映画鑑賞など、土日を中心としたサービスも行っています。

視覚障害者の支援(同行援護)では旅行の付き添いなども行い、皆さんが地域で豊かに生活できるようサー ビスを提供しています。

平成24年7月1日事業開始・自主事業

○事業の根拠 障害者総合支援法に基づく居宅介護, 重度訪問介護, 同行援護, 行動援護, 移動支援,

福祉有償運送

水戸市河和田町123番地の1 ○所在地

管理者	1名	サービス提供責任者	2名
生活支援員	2名	登録ヘルパー	10名

テーマ「であい・ふれあい・ささえあい

~共に生きる地域の実現を願って~」

このテーマは、「であい」をきっかけに同じ一人の人間としての「ふれあい」により交流を深めて、地域 の中での「ささえあい」を通して共に生きていこうというものです。

この目的を実現していくために祭りを通して伝えていきたいことは、だれもが心のバリアをなくして、 理解し合える環境を作りたいということです。

そして、これらは当時の水戸市社会福祉事業団が掲げた理念「利用者の人権を尊重し、誰もが安心し て自分らしく暮らせる地域づくりを目指します。」に通じるものとして現在も引き継がれ、1日だけの祭 りにとどまらず、日々の活動を通して、共に生きる地域の実現に向けて歩んでいこうというものです。

令和元年度は、水戸市社会福祉協議会法人化50周年並びに水戸市市政施行130周年の記念大会として 開催予定でしたが、開催直前に関東地方に上陸した台風19号により多くの世帯が被災されたため中止と なりました。

平成元年11月事業開始・自主事業

○実施主体 水戸市総合福祉作業施設(のぞみ・むつみ・つどい・はげみ) いこい、みのり

○運営主体 愛パーク祭運営委員会

○会 場 水戸市総合福祉作業施設(水戸市河和田町123番地の1)

○来場者規模 1,200人



社会福祉協議会と社会福祉事業団が合併した平成28年に開催した第28回愛パーク祭







平成30年度に開催した第30回愛パーク祭(30周年記念)では、各施設で利用者といっしょに参加して 頂き、体験を通した出会いのある【ワークショップ】なども行った

就労支援部門

就労支援部門では水戸市の指定管理3事業,委託事業2事業を運営しています。

水戸市身体障害者就労支援施設のぞみ ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

障害により一般に雇用されることが困難な方が、整備された環境のもとで必要な訓練を受けるとともに、 職業を得て自立する事を目的とする施設です。一般企業への就労を希望する人に、一定期間、就労に必 要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う就労移行支援事業により,一般就職者を多数出してい ます。また、同時に作業種目として、印刷・パソコン・縫製・軽作業を行い、一般企業での就労が困難 な人に働く場を提供するとともに地域及び技能の向上のために必要な訓練を行う就労継続支援B型事業 のサービスを提供し,高い工賃支払いを目指します。

昭和62年4月1日事業開始・指定管理

障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型・就労移行支援 ○根拠法令

○建物面積 967㎡

40名(就労継続支援B型34名, 就労移行支援6名) ○定 員

○対象者 身体障害者手帳を持つ方

自宅から通所できる方

働く意欲を持つ方

○利用方法 送迎バス,路線バス,自家用車など

【日 課】

8:30	9:00	10:15	12:00	14:00	15:10	15:30
利用開始	作 業 開 始	休憩	昼食	休憩	作 業 終 了	清利 用 終 掃了

施設長(兼務)	(1名)	サービス管理責任者(兼務)	(1名)	目標工賃達成指導員	1名
生活支援員	2名	職業指導員	4名	就労支援員	1名
調理品	2夕				





印刷作業



縫製作業

障害により一般に雇用されることが困難な方が、整備された環境のもとで必要な訓練を受けるとともに、 職業を得て自活する事を目的とする施設です。クッキーの製造販売、園芸・軽作業を行い、一般企業で の就労が困難な人に働く場を提供するとともに就労意欲、適応能力の向上を図ります。また個別支援計 画に基づき、日常の活動を通して基本的習慣を身につけ、社会性や社会適応力を高める支援を行います。

平成元年4月1日事業開始・指定管理

○根拠法令 障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型

○建物面積 648㎡ ○定員 30名

○対象者 療育手帳を持つ方

> 自宅から通所できる方 作業能力が期待できる方

路線バス, 自転車など ○利用方法

【日 課】

8:30	9:00	10:30	12:00	14:00	15:10	15:30
利 用 開	作 業 開	休	昼	休	作 業 終	清 利 用 終
始	始	憩	食	憩	了	掃了

施設長(兼務)	(1名)	サービス管理責任者(兼務)	(1名)	目標工賃達成指導員	1名
生活支援員	3名	職業指導員	3名	調理員	2名





園芸作業



軽作業



クッキーの製造作業

障害により一般に雇用されることが困難な方が、整備された環境のもとで必要な訓練を受けるとともに、 職業を得て自立する事を目的とする施設です。作業種目として、パン・クッキーの製造販売、清掃作業 を行い、一般企業での就労が困難な人に働く場を提供するとともに地域及び技能の向上のために必要な 訓練を行う就労継続支援B型事業のサービスを提供します。

平成6年4月1日事業開始・指定管理

○根拠法令 障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型

○建物面積 618㎡ ○定員 30名

○対象者 療育手帳を持つ方

> 自宅から通所できる方 作業能力が期待できる方

路線バス, 自転車など ○利用方法

【日 課】

8:30	9:00	10:30	12:30	14:10	15:00	15:30
利 用 開	作 業 開	休	昼	休	作 業 終	清 利 用 終
始	始	憩	食	憩	了	掃了

施設長	1名	サービス管理責任者	1名	目標工賃達成指導員	1名
生活支援員	1名	職業指導員	5名	調理員	2名





パンの製造作業



清掃作業

主に知的障害者を対象とし、空きビン空き缶の選別作業を行い、一般企業への就労を希望する人に、 一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う就労移行支援事業及び一般の企 業で雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である人に対して行う雇用契約の締 結等による就労機会の提供及び就労に必要な地域及び能力の向上のために必要な訓練その他の支援を行 う就労継続支援A型事業のサービスを提供するとともに、職場適応援助者支援事業を行います。

平成7年4月事業開始・受託事業

○根拠法令 障害者総合支援法に基づく就労継続支援A型・就労移行支援

○定 員 20名(就労継続支援A型事業10名, 就労移行支援事業10名)

○対象者 障害者手帳を持つ方

自宅から通所できる方

働く意欲を持つ方

路線バス, 自転車, 家族送迎など ○利用方法

【日 課】

8:30	9:00	10:15	12:00	14:00	15:10	15:30
 利 用 開	作 業 開	休	昼	休	作 業 終	清 利 用 終
始	始	憩	食	憩	了	掃了

施設長(兼務)	(1名)	サービス管理責任者(兼務)	(1名)	生活支援員	1名
職業指導員	3名	就労支援員	1名	職場適応援助員	1名



作業の様子

主に知的障害者を対象とし、市福祉ボランティア会館の清掃や喫茶は一との運営、法人内事業所のご み収集作業を行い、一般企業での就労が困難な人に働く場を提供するとともに地域及び技能の向上のた めに必要な訓練を行う就労継続支援B型事業のサービスを提供します。

平成12年12月事業開始・受託事業

○根拠法令 障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型

○定 員 20名(就労継続支援B型事業20名)

○対象者 障害者手帳を持つ方

自宅から通所できる方

働く意欲を持つ方

○利用方法 路線バス, 自転車, 家族送迎など

【日 課】

7:00	8:00	10:00	11:20	12:20	13:45	14:00
利清 用掃 開作	開喫茶	休	昼休	作 業 開	作 業 終	利 用 終
始業	始業	憩	食憩	始	*	

所長	1名	サービス管理責任者(兼務)	(1名)
生活支援員	1名	職業指導員	2名





喫茶は一と



清掃作業



資 料

水戸市社会福祉協議会会長就任状況

- ・水戸市社会福祉協議会創立(昭和28年7月1日)
- ・社会福祉法人認可(昭和44年3月27日)
- ・水戸市社会福祉事業団との合併(平成28年4月1日)

氏 名	就任年月日	役職名	備考
伊藤建之助	昭和28年7月1日	会 長	
伊 藤 建之助	昭和43年12月1日	設立代表者 ・会長	
伊 藤 建之助	昭和44年3月27日	会 長	
川角豊太郎	昭和46年7月28日	会 長	
中山 正	平成元年7月17日	会 長	
郡司勝美	平成7年3月1日	会 長	
岩 上 堯	平成22年6月1日	会 長	
保 立 武 憲	平成26年7月1日	会 長	

水戸市社会福祉協議会歴代役員名簿

(法人化30周年記念誌発行以降分を掲載)

	1			
役職	平成11年度	平成13年度	平成15年度	平成17年度
会 長	郡司 勝美	郡司 勝美	郡司 勝美	郡司 勝美
副会長	関 昇	高岡 聖真	高岡 聖真	小澤 一郎
	栗原 好	栗原 好	鈴木 重宜	影山 二郎
	大澤 清信	大澤 清信	大澤 清信	坂場 實
	河合トシコ	河合トシコ	河合トシコ	河合トシコ
常務理事	小田木正樹	小田木正樹	薄井 孝一	寺門 優
理事	高岡 聖真	菊池 實	菊池 實	礒崎 孝子
	市原 毅	市原 毅	市原 毅	市原 毅
	小澤 一郎	小澤 一郎	小澤 一郎	大野光一
	皆川 睦子	加藤 紀子	大谷日出子	原 毅 石井 恭子
	江幡広太郎	黒羽 昭夫	黒羽 昭夫	山口慶治
	山口慶治	山口慶治	山口慶治	袴塚 孝雄
	備海 輝雄	大貫 富二	小川 誠之	中島知明
	 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	 野村 眞実	波多 昭治	松村 直道 神原 清
	松村直道	松村直道	松村直道	一一
 監 事	根本瑞	内藤省三	内藤省三	小田木 進
	江幡八郎衛門			江幡八郎衛門
 備 考	. = 100, 154, 1141, 4	. = 1945 - 5-4 - 1141 - 4	. = 1997 - 2-4 1141 - 4	
νm				

役 職	平成19年度	平成21年度	平成23年度	平成25年度
会 長	郡司 勝美	郡司 勝美	岩上 堯	岩上 堯
副会長	蔭山 二郎 篠原 正男 河合トシコ 礒崎 孝子	渡邊 和雄 小川 喜治 久野三七十 夏堀きく江	久野三七十 渡邊 和雄 小川 喜治 夏堀きく江	宮田 静 渡邊 和雄 小川 喜治 久信田もと子
常務理事	寺門 優	飯田 好光	後藤 務	菊池 晃
理事	久市小原幡山野小松桧友野原澤 谷口村林村山部七 一 哲慶眞紀直 上 報郎毅子治実夫道實英	市桜小原久山加清松桧友 原井澤 賀口藤水村山部 一 寿慶光孝直 一 安	篠市小名金山五清和友桧原原澤雪澤口十水知部山 大田	井坂

役	職	平成19年度	平成21年度	平成23年度	平成25年度
監	事	小田木 進	服部 正樹	山内 基弘	会沢 俊郎
		江幡八郎衛門	江幡八郎衛門	江幡八郎衛門	江幡八郎衛門
備	考				

役 職	平成27年度	平成28年度	平成29年度	R 1.6.25現在
会 長	保立 武憲	保立 武憲	保立 武憲	保立 武憲
副会長	井坂 照夫	井坂 照夫	井坂 照夫	井坂 照夫
	大内 元一	大内 元一	大内 元一	大内 元一
	大関 茂	大関 茂	大関 茂	堀井 武重
	久信田もと子	久信田もと子	久信田もと子	久信田もと子
常務理事	菊池 晃	秋葉 欣二	秋葉 欣二	関 徳彦
		菊池 晃		(H30.4.1 就任)
理 事	阿部 啓一	阿部 啓一	阿部 啓一	田上 惠子
	大野 光一	大野 光一	大野 光一	大野 光一
	平沼 賢治	平沼 賢治	平沼 賢治	平沼 賢治
	髙橋 康暉	髙橋 康暉	髙橋 康暉	岡田 澄子
	田口 米蔵	田口 米蔵	高倉富士男	鈴木 宣子
	根本 一夫	根本 一夫	大曽根明子	大曽根明子
		大内 仁	棯崎ひろ子	棯崎ひろ子
		棯崎ひろ子	笹沼 慎一	笹沼 慎一
		若松 良子	沢畑 清子	沢畑 清子
		笹沼 慎一		
		沢畑 清子		
		野田恵理子		
監 事	井坂 重夫	井坂 重夫	清水 孝子	清水 孝子
	江幡八郎衛門	江幡八郎衛門	永井 好信	小田木義弘
		羽生 健志	庄司 圀美	庄司 圀美
備考		水戸市社会福祉事	社会福祉法の改正	
		業団との合併によ	による選任	
		る選任		

(法人化30周年記念誌発行以降分の掲載)

水戸市社会福祉協議会歴代評議員名簿

平成11年度	平成13年度	平成15年度	平成17年度	平成19年度	平成21年度
入江 清男	入江 清男	檜山 武夫	竹内英雄	竹内英雄	軍司進
中山志郎	緑川 忠俊	緑川 忠俊	緑川 忠俊	桜井 磐雄	篠原 秀
安嶋ゆり子	安嶋ゆり子	関愛助	軍司正男	増子 秀逸	増子 秀逸
菊池 實	根矢 弘	軍司正男		亀井 秀夫	亀井 秀夫
久野三七十	久野三七十	久野三七十	大津 勲	大津 勲	宮田 静
奥田 俊亮	奥田 俊亮	奥田 俊亮	助川義明	助川 義明	助川義明
瀬谷 和人	瀬谷 和人	瀬谷 和人	園部 和美	園部 和美	園部 和美
蔀 浩安	蔀 浩安	鬼澤 實	飯村 義雄	飯村 義雄	青木 實
小圷 角蔵	根本 良夫	前島 美賀	久野 誠二	久野 誠二	荘司道之介
根本 良夫	坂場 實	坂場 實	野村 建治	大内 元一	小山田六郎
坂場 實	森田 正昭	森田 正昭	篠原 正男	薬師神一重	仲川 武夫
森田 正昭	大和田 正	久野 誠二	中山 志郎	小川 喜治	篠原 正男
大和田 正	久野 誠二	野村 建治	大内 元一	荘司道之介	笹沼 進三
久野 誠二	高儀 満威	木下 緑	薬師神一重	中山 志郎	中山 志郎
木村 絹江	根本 すい	根本 すい	夏堀きく江	夏堀きく江	小圷 玲子
播田実とみ	播田実とみ	播田実とみ	小圷 玲子	小圷 玲子	久信田もと子
根本 すい	夏堀きく江	夏堀きく江	久信田もと子	久信田もと子	才丸 洋子
大内 元一	森昭	森昭	森昭	村上 孝子	村上 孝子
大野 光一	大野 光一	大野 光一	大越 正敏	大野 光一	大野 光一
伊藤 輝子	伊藤 輝子	伊藤 輝子	冨田たま子	冨田たま子	冨田たま子
津田 政一	蓑輪 勇	山川庫	山川庫	山﨑準之助	根本 良夫
川又 あい	大森あきの	小林せつ子	小林 すみ	小林せつ子	小林せつ子
山口 正保	住谷 元紀	住谷 元紀	塙 則雄	髙橋 康暉	髙橋 康暉
糸賀 偉之	小林 茂	小林 茂	小林 茂	岩間 一雄	石堀 和雄
野坂 英一	髙橋 征子	髙橋 征子	飯村 眞造	山口 保雄	山口 保雄
髙橋 康暉	佐藤均	森田 秀人	庄司 努	小林 茂	清水 芳明
石田 潔	森田 秀人	山内 基弘	山内 基弘	山内 基弘	畑中 繁利
皆川 義光	中村 睦夫	鈴木 重紀	中村 睦夫	清水 孝子	森田 秀人
池田 邦彦	鈴木 重紀	大谷 博光	中村優	中村優	佐藤 輝夫
中島知明	大谷博光	中村優	清水 孝子	高﨑 正典	高崎 正典
相澤 汎	松田和枝	小圷 旭	小圷 旭	小圷 旭	小圷 旭
松田和枝	名雪マサ子	名雪マサ子	塩谷みとり	名雪マサ子	名雪マサ子
水越 郁子	塩谷みとり	塩谷みとり	名雪マサ子	藤田絹代	藤田絹代
松田玄	水越 郁子	木村 芳子	山本 礼子	清水康男	尾島 司
綿抜 郁子	横須賀淳子	會沢惠美子	會沢惠美子	清宮 典子	大塚 昌弘
鈴木 敏彦	鈴木 敏彦	富山 章一	石井 稔	菊池 克幸	菊池 克幸
渋谷 敦司					
野村晴子	堀江 秀男	森 和似	照沼美代子	仲根 泰子	仲根 泰子
小林 三郎	小林 三郎	石井 養信	石井 養信	山本 龍男	横田英之
藤原忠弘	藤原忠弘	藤原 忠弘	藤原 忠弘	藤原 忠弘	藤原忠弘
			栗林 兼雄	栗林 兼雄	福田紀二男
			友部 英	中崎保夫	海老根明義
			浅野 義久	海老根明義	寺門 敏勝

平成23年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	令和元年度
根本勝	蓮田 久光	青木 實	青木	青木 實	青木
鈴木 盛雄	出澤昭	出澤昭	出澤昭	出澤昭	出澤 昭
増子 秀逸	栗田 定道	栗田 定道	吉富富子	栗田 定道	本多 雄二
小圷 稔	館脇 忠介	吉冨 富子	栗田 定道	梶山 隆雄	野村 眞実
宮田 静	阿部 啓一	中村 宏	中村宏	矢田部秀夫	高畑 健兒
助川 義明	助川 義明	助川 義明	助川 義明	横川 洋一	杉田 政善
宮本 茂	宮本 茂	冨田たま子	冨田たま子	高畑 健兒	矢田部秀夫
青木 實	青木 實	矢田部秀夫	矢田部秀夫	中島 弘友	横川 洋一
篠原 正男	小山田六郎	笹沼 進三	笹沼 進三	林 由香里	川又 一郎
仲川 武夫	笹沼 進三	大槻 義光	高畑 健兒	山﨑百合子	中島 弘友
小山田六郎	大槻 義光	飛田 邦夫	飛田 邦夫	坂口しづ子	林 由香里
荘司道之介	小圷 玲子	小圷 玲子	小圷 玲子	岡田 澄子	山﨑百合子
笹沼 進三	才丸 洋子	才丸 洋子	才丸 洋子	桧山 孝	茂垣惠美子
中山 志郎	海老澤多恵子	林 由香里	林 由香里	小林 恒子	岡田 浩
小圷 玲子	佐川 真治	菊池 直樹	菊池 直樹	安藤 隆子	髙柿 義孝
久信田もと子	山川 庫	清水 昭郎	清水 昭郎	小山 忠	髙橋 康暉
才丸 洋子	安藤 隆子	安藤 隆子	安藤 隆子	斉藤 博之	小山 忠
安藤 香代	石堀 和雄	石堀 和雄	小山 忠	平沢 健一	櫻井 学
大野 光一	出澤 秀行	出澤 秀行	斉藤 博之	谷津 好行	平沢 健一
冨田たま子	大曽根明子	谷津 好行	平沢 健一	細谷あけみ	野口奈津子
山川庫	小山 忠	小山 忠	谷津 好行	川内 幸子	太田 元子
石堀 和雄	豊﨑和馬	豊﨑和馬	荻沼 学	宮田 礼彰	栗原 裕忠
髙橋 康暉	平沼 賢治	名雪マサ子	名雪マサ子	渡邉智恵子	鈴木 昌弘
小林 三郎	桧山 孝	桧山 孝	桧山 孝	内藤 政子	田中 康裕
山口 保雄	菊池 克幸	寺島 博実	寺島 博実	大澤 優子	川内 幸子
長須賀良明	高橋 光義	森田 達也	森田 達也	渡邉 忠	宮田 礼彰
根本 一夫			川内 幸子	大高 貴子	渡邉智恵子
豊﨑和馬			村上 孝勝		内藤 政子
小森 正巳			杉山 利明		大澤 優子
萩野谷 稔			粉川 妙子		渡邉 忠
藤田 絹代			髙橋 征子		大高 貴子
平沼 賢治			宮田 礼彰		
小林 恒子			影山 捷一		
矢萩美智子			高阿田惠代子		
橋本 浩志			内藤 政子		
菊池 克幸			高野 博子		
安齋 昭子			赤尾杉一枝		
礒嵜 禮子			渡邉 忠		
高橋 光義			高宮 勲		
藤原 忠弘			軍司 明子		
福田紀二男			江原 徳子		
海老根明義			大内 勲		
田口定男			池田 仁子		
	<u> </u>		.0		

水戸市社会福祉事業団理事長就任状況

- ・水戸市社会福祉事業団創立(昭和62年2月3日)
- ・水戸市社会福祉協議会と合併(平成28年4月1日)

氏 名	就任年月日	役職名	備考
佐川一信	昭和62年2月3日	理事長	
岡 田 広	平成5年10月17日	理事長	
加藤浩一	平成15年4月27日	理事長	
平山恒夫	平成17年4月1日	理事長	
出 澤 裕 史	平成18年6月1日	理事長	
鈴 木 重 紀	平成20年4月1日	理事長	
飯 田 克 雄	平成23年4月1日	理事長	
秋 葉 欣 二	平成27年4月1日	理事長	

水戸市社会福祉事業団歴代役員名簿

役 職	昭和62年度	平成元年度	平成3年度	平成5年度
理事長	佐川 一信	佐川 一信	佐川 一信	岡田 広
副理事長	宮嶋 敬夫	益子進一郎	益子進一郎	益子進一郎
常務理事	服部 富一		益子進一郎	益子進一郎
理事	髙橋 康暉	成田 啓五	成田 啓五	成田 啓五
	池田 弘	川角豊太郎	小澤 一郎	小澤 一郎
	成田 啓五	武藤 文雄	武藤 文雄	武藤 文雄
	川角豊太郎	小澤 一郎	向井 幸生	向井 忠生
	小澤 一郎	田仲 稔	田仲 稔	田仲 稔
	武藤 文雄	原 武	原 武	原 武
	向井 幸生	向井 幸生	戸川 潔	戸川 潔
	田仲 稔	高野 忠男	静間 敏子	静間 敏子
	原 武	須能 昭一	柏 英一	緑川 賢次
	大内 仁	静間 敏子	中山 正	中山 正
		小圷 旭	高野 忠男	高野 忠男
		服部 富一	根本 瑞	根本 瑞
		髙橋 康暉	高橋 正夫	大谷 智造
監事	大野 久雄	作山 英雄	茂手木正重	茂手木正重
	国井 末雄	茂手木正重	飯村 陽一	大内 啓助
備考		平成元年度		

役職 平成7年度 平成9年度 平成11年度 平成13年度 理事長 岡田 広 岡田 広 岡田 広 副理事長 渡部久二男 渡部久二男 川又 信孝 常務理事 渡部久二男 川又 信孝 川又 信孝 理事 成田 啓五 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 戸川 潔 向井 忠生 師 向井 忠生 師 前井 忠生 師 前井 忠生 郡司 勝美 冊 下川 潔 向井 忠生 郡司 勝美 情傷 暉雄 大肉 仁 戶川 潔 持田 強洋 持塚 孝雄 捻崎ひろ子 節木 昌子 京橋 丈夫 郡司 勝美 た崎 ひろ子 節木 昌子 安藤 薫 悟海 曜雄 石田 潔 安藤 薫 告岡 映 安藤 薫 大内 仁 鈴木 昌子 安藤 薫 大内 正面					
副理事長 渡部久二男 渡部久二男 川又 信孝 川又 信孝 理事 成田 啓五 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 六澤 一郎 戸川 潔 戸川 潔 向井 忠生 向井 忠生 原 武 郡司 勝美 田仲 稔 静間 敏子 備海 暉雄 大門 高橋 丈夫 郡司 勝美 特問 敏子 高橋 丈夫 郡司 勝美 大内 仁 野村 眞実 常聞 敏子 古田 進洋 持塚 孝雄 棯崎ひろ子高橋 丈夫 郡司 勝美 大内 仁 鈴木 昌子 安藤 薫 告岡 映 先崎 弘 貴川 義光 安藤 薫 世川 義光 安藤 薫 安藤 薫 茂手木正重 大內 啓助 根本 瑞 茂手木正重 内藤 省三	役 職	平成7年度	平成9年度	平成11年度	平成13年度
常務理事 渡部久二男 川又 信孝 理事 成田 啓五 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 戸川 潔 向井 忠生 向井 忠生 向井 忠生 同 武 下川 潔 向井 忠生 同 武 下川 潔 向井 忠生 同 武 下川 潔 大内 仁 下川 潔 向井 忠生 皆川 義光 行塚 孝雄 た崎ひろ子高橋 丈夫 郡司 勝美 た内 仁 野村 眞実 一部 勝美 た内 仁 野村 真実 一部 勝美 た内 仁 野村 真実 一部 一部 一方	理事長	岡田 広	岡田 広	岡田 広	岡田 広
理事 成田 啓五 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 小澤 一郎 一戸川 潔 戸川 潔 向井 忠生 同井 忠生 同月川 潔 一郎 一方川 潔 一郎 一方円川 潔 一郎 一方円川 潔 一郎 一方円川 潔 一郎 一方円川 潔 一郎 一方円	副理事長	渡部久二男	渡部久二男		
大内 大内 上下 大内 上下 大内 上下 上下 上下 上下 上下 上下 上下 上	常務理事	渡部久二男	渡部久二男	川又 信孝	川又 信孝
武藤 文雄 向井 忠生 同井 忠生 同井 忠生 同井 忠生 同月 田仲 稔 原 武 原 武 戸川 潔 方内 仁 戸川 潔 向井 忠生 静間 敏子 同月 忠生 静間 敏子 高橋 丈夫 郡司 勝美 ため 名子 高橋 丈夫 郡司 勝美 ため 名子 節木 昌子 家藤 薫 宮野 忠男 備海 暉雄 石田 潔 安藤 薫 宮野 忠男 佐崎 弘 吉岡 映 安藤 薫 茂手木正重 大内 啓助 根本 瑞 大再 直井 下工重 大内 啓助 根本 瑞 内藤 省三	理 事	成田 啓五	小澤 一郎	小澤 一郎	小澤 一郎
向井 忠生 田仲 稔 原 武 戸川 潔 静間 敏子 戸川 潔 静間 敏子 高橋 丈夫 郡司 勝美 高野 忠男 先崎 弘 吉岡 映 原 武 戸川 潔 向井 忠生 村田 進洋 持塚 孝雄 た崎ひろ子 総崎ひろ子 命木 昌子 安藤 薫 石田 潔 安藤 薫 世 校塚 孝雄 た崎ひろ子 会 大内 仁 会 を 会 大内 仁 会 大内 仁 会 大内 仁 会 大内 石田 家 安藤 薫 大円 五田 家 安藤 薫 大円 五田 家 安藤 直 田 安藤 薫 大内 大内 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大		小澤 一郎	武藤 文雄	戸川 潔	戸川 潔
田仲 稔 原 武 戸川 潔 戸川 潔 向井 忠生 静間 敏子 高橋 丈夫 郡司 勝美 大内 仁 野村 眞実 お崎ひろ子 高橋 丈夫 郡司 勝美 大内 仁 鈴木 昌子 安藤 薫 告岡 映 安藤 薫 大内 仁 安藤 薫 茂手木正重 大内 啓助 根本 瑞 内藤 省三		武藤 文雄	田仲 稔	向井 忠生	向井 忠生
原 武 戸川 潔 大内 仁 野村 眞実 前間 敏子 村田 進洋 袴塚 孝雄 棯崎ひろ子 高橋 丈夫 郡司 勝美 お木 昌子 市司 勝美 大内 仁 安藤 薫 市野 忠男 備海 暉雄 石田 潔 大崎 弘 古田 妻藤 薫 大崎 弘 古田 妻藤 薫 大崎 弘 安藤 薫 大崎 弘 安藤 薫 古田 映 安藤 薫 茂手木正重 大内 内藤 省三		向井 忠生	原 武	郡司 勝美	郡司 勝美
戸川 潔 向井 忠生 静間 敏子 高橋 丈夫 高橋 丈夫 郡司 勝美 大内 仁 鈴木 昌子 安藤 薫 雷野 忠男 備海 暉雄 安藤 薫 吉岡 映 安藤 薫 大内 白 次手木正重 大内 啓助 花手木正重 根本 瑞 内藤 省三 茂手木正重 内藤 省三		田仲 稔	静間 敏子	備海 暉雄	大貫 富二
静間 敏子 村田 進洋 袴塚 孝雄 棯崎ひろ子 高橋 丈夫 郡司 勝美 大内 仁 鈴木 昌子 郡司 勝美 大内 仁 鈴木 昌子 安藤 薫 高野 忠男 備海 暉雄 石田 潔 先崎 弘 皆川 義光 安藤 薫 吉岡 映 茂手木正重 茂手木正重 大内 啓助 横本 瑞 内藤 省三		原 武	戸川 潔	大内 仁	大内 仁
高橋 丈夫 郡司 勝美 た内 仁 鈴木 昌子 安藤 薫 高野 忠男 備海 暉雄 石田 潔 た崎 弘 皆川 義光 安藤 薫 吉岡 映 茂手木正重 茂手木正重 大内 啓助 茂手木正重 大内 藤 省三		戸川 潔	向井 忠生	皆川 義光	野村 眞実
郡司 勝美 大内 仁 鈴木 昌子 安藤 薫 高野 忠男 備海 暉雄 石田 潔 先崎 弘 皆川 義光 安藤 薫 吉岡 映 安藤 薫 監 事 茂手木正重 茂手木正重 茂手木正重 大内 啓助 根本 瑞 内藤 省三		静間 敏子	村田 進洋	袴塚 孝雄	棯崎ひろ子
高野 忠男 備海 暉雄 石田 潔 先崎 弘 皆川 義光 安藤 薫 吉岡 映 安藤 薫 監 事 茂手木正重 茂手木正重 茂手木正重 大内 啓助 根本 瑞 内藤 省三		高橋 丈夫	郡司 勝美	棯崎ひろ子	鈴木 昌子
先崎 弘 皆川 義光 安藤 薫 吉岡 映 安藤 薫 監 事 茂手木正重 茂手木正重 茂手木正重 大内 啓助 根本 瑞 内藤 省三		郡司 勝美	大内 仁	鈴木 昌子	安藤 薫
吉岡 映 安藤 薫 監 事 茂手木正重 茂手木正重 茂手木正重 大内 啓助 根本 瑞 内藤 省三		高野 忠男	備海 暉雄	石田 潔	
監事 茂手木正重 茂手木正重 茂手木正重 茂手木正重 大内 啓助 根本 瑞 根本 瑞 内藤 省三		先崎 弘	皆川 義光	安藤 薫	
大内 啓助 根本 瑞 根本 瑞 内藤 省三		吉岡映	安藤 薫		
11/44 日	監事	茂手木正重	茂手木正重	茂手木正重	茂手木正重
備考		大内 啓助	根本 瑞	根本 瑞	内藤 省三
	備考				

役 職	平成15年度	平成17年度	平成19年度	平成21年度
理事長	加藤浩一	平山 恒夫	出澤 裕史	鈴木 重紀
常務理事	大貫 富二	出澤 裕史		
理 事	小澤 一郎	小澤 一郎	小澤 一郎	小澤 一郎
	戸川 潔	戸川 潔	向井 忠生	向井 忠生
	向井 忠生	向井 忠生	郡司 勝美	郡司 勝美
	郡司 勝美	大内 仁	大内 仁	大内 仁
	小川 誠之	袴塚 孝雄	棯崎ひろ子	棯崎ひろ子
	大内 仁	郡司 勝美	鈴木 昌子	若松 良子
	波多 昭治	中島知明	野村 眞実	加藤 光子
	棯崎ひろ子	棯崎ひろ子	齋藤 典生	清水 孝子
	鈴木 昌子	鈴木 昌子	小林由紀夫	渡辺 明恵
	澤田修	澤田修	木暮 篤	
監 事	茂手木正重	茂手木正重	茂手木正重	羽生 健志
	内藤 省三	小田木 進	小田木 進	服部 正樹
備考				

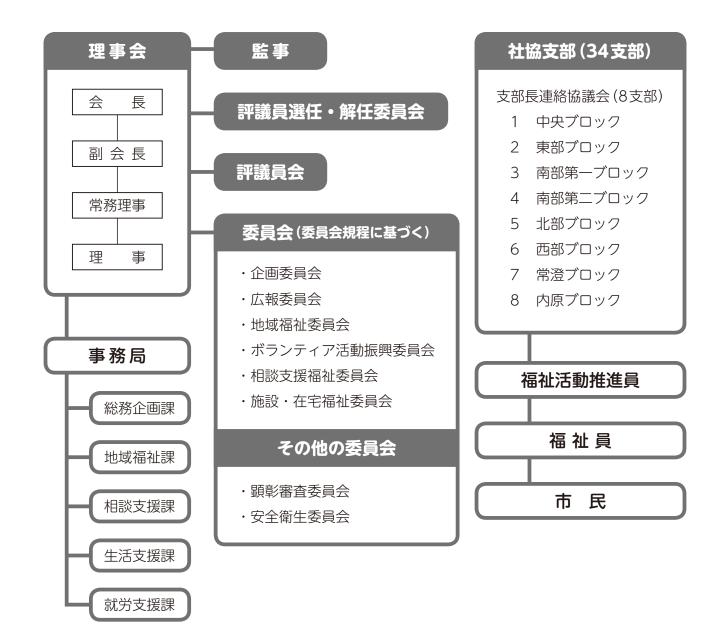
役 職	平成23年度	平成25年度	平成27年度	平成28年
理 事 長	飯田 克雄	飯田 克雄	秋葉 欣二	秋葉 欣二
常務理事				
理事	小澤 一郎	小澤 一郎	大内 仁	大内 仁
	向井 忠生	向井 忠生	棯崎ひろ子	棯崎ひろ子
	岩上 堯	岩上 堯	若松 良子	若松 良子
	大内 仁	大内 仁	笹沼 慎一	笹沼 慎一
	棯崎ひろ子	棯崎ひろ子	大野 光一	大野 光一
	若松 良子	若松 良子	沢畑 清子	沢畑 清子
	笹沼 慎一	笹沼 慎一	保立 武憲	保立 武憲
	五十嵐博	細谷 春幸	細谷 春幸	田口 米蔵
	清水 孝子	秋葉 欣二	根本 一夫	根本 一夫
	渡辺 明恵	渡辺 明恵	野田恵理子	野田恵理子
監 事	羽生 健志	羽生 健志	羽生 健志	羽生 健志
	山内 基弘	会沢 俊郎	井坂 重夫	井坂 重夫
備考				平成28年4月1 日,市社会福祉協 議会と合併して解 散し,社協理事に 就任

水戸市社会福祉事業団歴代評議員名簿

平成13年度	平成15年度	平成17年度	平成19年度	平成21年度
木村 朋子	木村 朋子	川内 幸子	川内 幸子	川内 幸子
村上 孝勝				
鈴木 重宜	鈴木 重宜	渡邊 和雄	渡邊 和雄	渡邊 和雄
大内百合子	大内百合子	粉川 妙子	粉川 妙子	粉川 妙子
住谷 元紀	住谷 元紀	五藤博	安藤 隆子	安藤 隆子
髙橋 征子				
宮田 礼彰				
影山 捷一				
寺澤 房子	寺澤 房子	寺澤 房子	高阿田惠代子	高阿田惠代子
内藤 政子				
高野 博子				
赤尾杉一枝	赤尾杉一枝	赤尾杉一枝	赤尾杉一枝	赤尾杉一枝
名越 三郎	名越 三郎	名越 三郎	名越 三郎	渡邉 忠
森田 秀人	森田 秀人	庄司 努	小林 茂	清水 芳明
糸賀 偉之	中村優	中村優	中村優	菊池 晃
中村 睦夫	山内 基弘	山内 基弘	山内 基弘	佐藤 輝夫
鈴木 重紀	鈴木 重紀	中村 睦夫	清水 孝子	畑中 繁利
大谷 博光	大谷 博光	清水 孝子	高﨑 正典	森田 秀人
茅根 英博				
小田木正樹	薄井 孝一	寺門 優	寺門 優	飯田 好光
大内 穆	大内 穆	大内 穆	大内 穆	軍司 明子
中川 法子	中川 法子	軍司 明子	軍司 明子	江原 徳子
江原 徳子	江原 徳子	江原 徳子	江原 徳子	池田 正則
小林 定治	渡辺 明恵	渡辺 明恵	渡辺 明恵	寺門 聡
渡辺 明恵	木暮 篤	木暮 篤	石堀 和雄	

平成23年度	平成25年度	平成27年度	平成28年
川内 幸子	川内 幸子	川内 幸子	川内 幸子
村上 孝勝	村上 孝勝	村上 孝勝	村上 孝勝
渡邊 和雄	杉山 利明	杉山 利明	杉山 利明
粉川 妙子	粉川 妙子	粉川 妙子	粉川 妙子
安藤 隆子	安藤 隆子	安藤 隆子	安藤 隆子
髙橋 征子	髙橋 征子	髙橋 征子	髙橋 征子
宮田 礼彰	宮田 礼彰	宮田 礼彰	宮田 礼彰
影山 捷一	影山 捷一	影山 捷一	影山 捷一
高阿田惠代子	高阿田惠代子	高阿田惠代子	高阿田惠代子
内藤 政子	内藤 政子	内藤 政子	内藤 政子
高野 博子	高野 博子	高野 博子	高野 博子
赤尾杉一枝	赤尾杉一枝	赤尾杉一枝	赤尾杉一枝
渡邉 忠	渡邉 忠	渡邉 忠	渡邉 忠
長須賀良明	出澤 秀行	出澤 秀行	出澤 秀行
播田実俊一	播田実俊一	播田実俊一	播田実俊一
小森 正巳	小山 忠	小山 忠	小山 忠
根本 一夫	大曽根明子	谷津 好行	谷津 好行
豊﨑和馬	豊﨑和馬	豊﨑和馬	豊﨑和馬
川原井 栄	川原井 栄	川原井 栄	高宮 勲
後藤務	菊池 晃	菊池 晃	菊池 晃
軍司 明子	軍司 明子	軍司 明子	軍司 明子
江原 徳子	江原 徳子	江原 徳子	江原 徳子
池田 正則	池田 正則	浅野 正敬	浅野 正敬
寺門 聡	浅野 正敬	池田 正則	池田 正則
			平成28年4月1
			日,市社会福祉協
			議会と合併して解 散し,社協評議員
			に就任

水戸市社会福祉協議会組織図



各社協支部の歴代支部長一覧

No.1						
支部名	三の)丸 支	部	設立年	三:昭和	46年
支部長		助	j JII	義明	月	
歴 代	初代	都築	貞邦	5代	佐々坊	成 昭
支部長		(S46.7	7~)		(H20	~)
	2代	浅野	良平	6代	菊池	興安
		(S53.7	7~)		(H24	~)
	3代	正村	稔	7代	助川	義明
		(S59~	-)		(H28	~)
	4代	檜山	武夫			
		(H11.	4~)			

No.2						
支部名	五	軒 3	と 部	設立年	三: 昭和	46年
支部長		月	藤	進り	Ę	
歴 代	初代	望月	芳雄	6代	竹内	英雄
支部長		(S46.	7~)		(H12	.5~)
	2代	梶山	正	7代	金澤	克憲
		(S48.	7~)		(H20	~)
	3代	望月	芳雄	8代	小貫	正雄
		(S53.	7~)		(H28	~)
	4代	田口	忠義	9代	伊藤	進央
		(S61.	4~)		(H30	~)
	5代	関	昇			
		(S62.	1~)			

1	No.3						
	支部名	新	荘 ラ	支部	設立年	三:昭和	46年
	支部長		1	青 木	复	Ĭ	
	歴 代 支部長	初代	山田 ⁻ (S51.4	•	5代	入江 (H8.	
	ZHIZ	2代	滝田	愛志	6代	軍司	進
		3代	(S51. 大津		7代	(H15 青木	1
		4代	(S54. 田口			(H23	.4~)
			(S58.				

No.4			
支部名	常	磐 支部	設立年:昭和54年
支部長		小 林	富雄
歴 代	初代	黒沢 義信	8代 市原 毅
支部長		(S54~)	(H5.4~)
	2代	木村 新吾	9代 関 愛助
		(S56~)	(H12.4~)
	3代	小和瀬栄造	10代 緑川 和基
		(S58.4~)	(H16.4~)
	4代	二木栄太郎	11代 篠原 洋
		(S58~)	(H18.4~)
	5代	水越 豊吉	12代 関澤 茂
		(S62.4~)	(H20.4~)
	6代	市毛 幸吉	13代 川崎 進
		(H2.4~)	(H24.10~)
	7代	水越 豊吉	14代 小林 富雄
		(H3.4~)	(H26.4~)

	No	.5								
	支部	『名	堀	堀 原 支部 記			設立年:昭和60年			
	支部	『長			启	5 畑	健	5	1	
	歴	代	初代	須	貝	俊雄	5f	t	江幡	瑞雄
1	支音	尽長		(S60.5~)			(H19.4~)			
1			2代	野	†	征次	61	J	桑名	賢
1				(H^{0})	9.1	0~)	(H25.4~)			.4~)
1			3代	岩	卞	勇	7f	J	高畑	健兒
1				(H11.5~)					(H27.	.4~)
1			4代	小	睪	一郎				
				(H	13.	.5~)				

No.6			
支部名	浜	田 支部	設立年:昭和48年
支部長		天 野	政 幸
歴 代	初代	川上重之介	6代 中村 昭
支部長		(S48~)	(H16~)
	2代	荻原 常正	7代 河野 公房
		(S48.11~)	(H22~)
	3代	櫻井 秋雄	8代 桐原 年郎
		(S60~)	(H24~)
	4代	根矢 弘	9代 天野 政幸
		(H4.5~)	(H28~)
	5代	蔭山 二郎	
		(H14~)	

No.7			
支部名	城	東 支部	設立年:昭和48年
支部長		井 坂	照 夫
歴 代	初代	阿久津 猛	5代 小山 昇
支部長		(H9.4~)	
	2代	片岡 義男	6代 礒崎 孝子
		(S48.7~)	(H14~)
	3代	村山 稔	7代 井坂 照夫
	(S62.6~)		(H21~)
	4代	山中政冶郎	
		(H5.8~)	

No.8						
支部名	千	波	支部	設立年	F:昭和	45年
支部長			村 上	孝	子	
歴 代	初代	高倉	隆文	4代	山本	金男
支部長		(S45	5~)		(H13	.4~)
	2代	市村	弥一	5代	村上	武夫
		(S49	9.5~)		(H19	.4~)
	3代	中山	志郎	6代	村上	孝子
		(H5.	.4~)		(H28	~)

No.9			
支部名	見	川 支部	設立年:昭和52年
支部長		町 島	正敏
歴 代	初代	橋本 貞弥	5代 石川多喜男
支部長		(S52.7~)	(H24~)
	2代	綿引 嘉久	、6代鈴木 弘
		(H1.4~)	(H25~)
	3代	緑川 忠俊	7代 町島 正敏
	(H8.4~)		(H31~)
	4代	根本 勝	È
		(H18~)	

No.	10								
支部	『名	梅カ	近	支部	18	設立	<u>〔</u> 年	:昭和	46年
支部	尽長			加	藤	時	太	É	
歴	代	初代	大	津不	二男	51	t	小泉	二朗
支部	尽長		(S4	16.7	~)			(H25	~)
		2代	木	下	緑	61	F	中井月	川正次
			(H	3.5~)			(H26	~)
		3代	小	林	淳	7f	F	加藤	時雄
			(H	10.4	~)			(H29	~)
		4代	石I	山功	丘郎				
			(H:	20~))				

No.11			
支部名	石	川 支部	設立年:昭和55年
支部長		塩 谷	文 則
歴 代	初代	西山 勝重	6代 丸山 俊郎
支部長		(S55~)	(H14~)
	2代	近藤 軍司	7代 中村 宏
		(H.∼)	(H20~)
	3代	岩間 義臣	8代 遠藤 洋三
		(S55.5~)	(H28~)
	4代	岩間 ハマ	9代 塩谷 文則
		(H5~)	(H30~)
	5代	鷹崎 英雄	
		(H9.1~)	

No.	12								
支部名 赤		塚	支	部	設立	年	:昭和	57年	
支部	長			野	村	眞	集	ξ	
歴	代	初代	大剂	聿	満	81	t	大澤	清信
支部	長	(S57~)			(S61.4~)			4~)	
		2代	大剂	大津尚之進		9代	G	小圷	和子
		3代	高	倚	正男		(H8.7~)		
			(S5	2.7	~)	10作	J	増子	秀逸
		4代	高倉	會	隆			(H14	~)
		5代	石岩	井	要直	11作	J	野村	眞実
		6代	大剂	睪	藤一			(H26	~)
		7代	大剂	睪	武				

	No	.13						
	支音	『名	河利	1田 3	支部	設立年:昭和57年		
	支音	『長		柁	念崎	真	Ę	
	-	代	初代	沢畑 (S57.	11110	4代	久野三· (H7~)	七十
	又口	PIX	2代	山中i	吉太郎	5代	棯﨑	薫
ı				(S59	~)		(H25~)
ı			3代	髙橋	康暉			
				(H5~	-)			

No	.14								
支音	支部名		妻	支部		設立年:昭和			57年
支部	『長			星	野	正	美	È	
歴	代	初代	司高	1	聖真	3f	t	深谷	和久
支部	『長		(S5'	7.9	~)			(H18	~)
		2代	平山	1	博義	4f	J	星野	正美
(H16~))			(H30	~)	

No.15		X					
支部名	双葉台 支部			設立年:昭和55年			
支部長		秦	前 池	好 身	男		
歴 代	初代	大林	要	5代	小林	栄子	
支部長		(S55.	7~)		(H16	.~)	
	2代	斉藤	三男	6代	栗田	定道	
		(S61.	4~)	(H19.~)			
	3代	舘	民夫	7代	菊池	好男	
			6~)		(H31	.~)	
	4代	篠原	正男				
		(H12	.5~)				

No.16								
支部名	Щ	根	根支部		設立	.年	:昭和	63年
支部長			大	信	重	声	Ħ	
歴 代	初代	大亿	∄	丈夫	4f	t	大津と	こみゑ
支部長		(S63.7~)			(H19~)			~)
	2代	高信	義	満威	5f	J	飛田	廣實
		(H)	(H7~)				(H21	~)
	3代	岩岩	部	誠一	6f	J	大信	重典
		(H	17~	~)			(H27	~)

No.17			
支部名	緑	岡 支部	設立年:昭和48年
支部長		大 内	元 一
歴 代	初代	小林 保四	5代 山本 昭
支部長		(S48~)	(H11.4~)
	2代	玉崎新之輔	6代 長谷川利次
	3代	石井 彦一	(H20~)
	4代	沼田 三男	7代 大内 元一
		(S52.7~)	(H23~)

No.18						
支部名	笠	原	支部	設立年	三:昭和	48年
支部長			長 岡	興		
歴 代 支部長		堀江 (S55. 小林 (H1.6	4~) 保四		大竹 (H28 長岡 (H29	~)
	3代	久野 (H5~	誠二		(112)	,

No.19						
支部名	寿	支	部	設立年	:昭和	48年
支部長		本	多	雄二	<u>-</u>	
歴 代	初代	広野鈴	失太郎	8代	渡辺	善夫
支部長		(S48~	~)		(H10	.5~)
	2代	橋本	勇	9代	野沢信	圭年子
	3代	松本	多助		(H13	~)
	4代	平沢	啓二	10代	中﨑	高行
		(S55.	5~)		(H15	~)
	5代	新島	正義	11代	荒木	英男
		(S58.	5~)		(H23	~)
	6代	根本	良夫	12代	本多	雄二
		(H5.5	(~)		(H26	~)
	7代	雨谷	静子			
		(H9.5	(~)			

No.20						
支部名	吉	田	支部	設立	年:昭和	46年
支部長			田 上	惠	子	
歴 代	初代	笹沼	四東之介	4代	小圷	稔
支部長		(S4	6~)		(H20	~)
	2代	小生	下 角蔵	5代	田上	惠子
		(S4	8.7~)		(H25	~)
	3代	夏圳	屈きく江			
		(H1	.3~)			

No.21								
支部名	吉	沢	支	部	設立	.年	:昭和	159年
支部長			薗	部	勝	夫	ŧ	
歴 代	初代	菊池	þ	實	4f	t	真野	邦子
支部長		(S59	9.5	~)			(H26	~)
	2代	亀井	F 3	秀夫	5f	t	薗部	勝夫
		(H1	6~)			(H28	~)
	3代	館服	3 ;	忠介				
		(H2	2~)				

No.22	λ		
支部名	酒	門 支部	設立年:昭和46年
支部長	:	佐々木	修一
歴 代	初代	吉田 悌二	8代 木村 隆久
支部長	:	(S46~)	(H17~)
	2代	介川 一直	9代 檜山 秀
		(S48.7~)	(H19~)
	3代	栗原 文夫	10代 早川 淳
		(S58.7~)	(H21~)
	4代	郡司 由清	11代 椿山 勝一
		(S60.4~)	(H23~)
	5代	皆川 徳	12代 吉冨 富子
		(S61.4~)	(H25~)
	6代	栗原 好	13代 黒須 文雄
		(H5.4~)	(H29~)
	7代	伊藤 克巳	14代 佐々木修一
		(H10.4~)	(H31~)

No.23						
支部名	上大	、野 支	部	設立	年:昭和	146年
支部長		駒	橋	_	俊	
歴 代	初代	横須賀	平重	5代	と 軍司	正男
支部長		(S46~	·)		(H3.6	5~)
	2代	山口	寛	64	3 鈴木	盛雄
		(S56.6	5~)		(H19	~)
	3代	寺口鈞	快郎	7代	、 駒橋	一俊
	4代	藤咲	富弘		(H24	~)
		(S62.6	5~)			

No.24			
支部名	柳	河 支部	設立年:昭和46年
支部長		小 貫	英雄
歴 代	初代	川津 惣八	9代 八木岡正彦
支部長		(S46~)	(H15~)
	2代	飛田 房	10代 小林 誠
	3代	加藤木一夫	(H17~)
	4代	八木岡徹次	11代 海老澤美都里
		(S56.7~)	(H19~)
	5代	和泉慶三郎	12代 蓮田 久光
		(S59~)	(H22~)
	6代	廣瀬 弘	13代 小沼 洋司
		(H6~)	(H26~)
	7代	野村 建治	14代 小貫 英雄
		(H9.4~)	(H28~)
	8代	大津 幸雄	
		(H13~)	

No.25			
支部名	渡	里 支部	設立年:昭和46年
支部長		横川	洋 一
歴 代	初代	須能 常直	i 6代 興野千代次
支部長		(S46~)	(H13~)
	2代	塙 三郎	7代 大槻 義光
		(S52.7~)	(H17~)
	3代	富田 誠	8代 阿部 啓一
		(S53.7~)	(H20~)
	4代	塙 三郎	9代 横川 洋一
		(S55.7~)	(H30~)
	5代	田所 良居]
		(S61.4~)	

No.26						
支部名	国	田 🕏	と 部	設立年	三:昭和4	46年
支部長		刁	田倉	康	菜	
歴 代	初代	関	篁	6代	江幡	勇
支部長	2代	小圷喜	喜一郎		(H10.	~)
	3代	宮田	勝雄	7代	宮田	静
	4代	根本	克巳		(H16~	-)
		(S53.	7~)	8代	小田倉	康家
	5代	高安	秀明		(H26~	-)
		(H7~	-)			

No.27 支部名 飯 富 支部 設立年:昭和46年 支部長 園 部 孝 歴 代 5代 厚綿 初代 柏 壬子郎 支部長 (S46.7~)(H22~) 2代 安嶋ゆり子 6代 梶山 隆雄 (H3.4~)(H25~) 7代 鬼沢 透 3代 大津 勲 (H14~) (H30~) 4代 冨田 貢 8代 園部 孝 (H20~) (H31~)

No.*								
支部名	常	澄	澄 支部		設立	立年:	平成	4年
支部長			桜	井	磐	雄		
歴 代	初代	田」	上宗	光				
支部長		(H4	1.8~)					
	2代	桜井	‡ 磐	雄				
		(H6	5.7~)					

※常澄支部は、平成13年8月4日に下大野支部、稲荷第一支部、稲荷第二支部、大場支部の4支部が発足し、解散した。

No.28						
支部名	下大	、野 支	ご部	設立	年:平成	13年
支部長		相	有内	正	次	
歴 代	初代	桜井	磐雄	3什	、 江口	孝史
支部長		(H13.	.8~)		(H29	~)
	2代	飛田	邦夫	4代	1 相内	正次
		(H23.	.7~)		(H31	~)

No.	.29						
支部	8名	稲荷	第一	支持	部	設立年:	平成13年
支部	8長			出	澤	昭	
歴	代	初代	前田		頌		
支音	『長		(H13)	8.8	~)		
		2代	田口	進	善		
			(H17	~)			
		3代	出澤		昭		
			(H21	~)			

No.30							
支部名	稲荷	第二	支持	部	設立年	:平成	13年
支部長			飯	田	洋		
歴 代	初代	飛田		熙	4代	尾﨑	盾
支部長	(H13.8~)		(H29~)				
	2代	2代 角田 宗明		5代	飯田	洋	
	(H19~)			(H31	~)		
	3代	黒澤	哲	夫			
		(H25	5~)				

No.31				
支部名	大場 支部		設立年:平成]	13年
支部長	長 矢田部		秀 夫	
歴 代	初代 善	落 浩安		
支部長	(]	H13.8~)		
	2代 着	篠原 秀		
	(]	H15~)		
	3代 5	5田部秀夫		
	(]	H24~)		

No.32						
支部名	内原 支部			設立年:平成17年		
支部長		坪	井	春	江	
歴 代	初代	神原	清	3代	森田	圀昭
支部長	(H17.4~)			(H27~)		
	2代	友部	英	4代	坪井	春江
		(H19~	.)		(H31	.4~)

※内原支部は、平成31年度から鯉淵支部、妻里支部が発足し、3支部となった。

No.33	
支部名	鯉淵 支部 設立年:平成31年
支部長	中 村 昌 平
歴 代	初代 中村 昌平
支部長	(H31.4~)

No.34	
支部名	妻里 支部 設立年:平成31年
支部長	杉 田 政 善
歴 代	初代 杉田 政善
支部長	(H31.4~)

水戸市地域福祉活動計画(福祉のまちづくり推進計画)(第3次) 及び水戸市社会福祉協議会発展・強化計画策定基本方針

1 計画策定の趣旨

近年, わが国は, 超高齢社会を迎え, 更なる 高齢化の進行とともに、少子化による急速な人 口減少社会への移行が懸念されています。加え て、高度な情報化社会を背景とした様々な価値 観やライフスタイルが混在する複雑な社会の中 で、貧困・低所得、引きこもり、孤独死、虐待、 自殺, DV(家庭内暴力)被害,ホームレス,ニー ト,8050,社会的排除など、既存の社会保障・ 社会福祉では解決に至らない諸問題が顕在化し ています。

これらの諸問題に対し、住み慣れた地域で、 誰もが安心して暮らせる地域社会をつくってい くためには、住民相互のつながりの希薄化、核 家族化の進行等が指摘されている今, 地域住民, 事業者、関係団体、ボランティア、行政機関等、 全ての市民が、地域の一員としてそれぞれの役 割のもと、連携し、支え合っていく必要があり ます。そのような中、国においては、2035年 の保健医療システムの構築に向けて, 地域包括 ケアシステムの深化、「地域共生社会」の実現を 目指し、我が事・丸ごとの地域づくりを推進し ています。

市町村自治体が策定する「地域福祉計画」が、 平成15年4月の社会福祉法の施行により市町村 の行政計画に位置付けられたことに伴い, 全国 社会福祉協議会においては、平成15年11月に「地 域福祉活動計画策定指針-地域福祉計画策定推 進と地域福祉活動計画」をとりまとめ、住民等 の活動・行動計画である「地域福祉活動計画」策 定への取り組みを全国の市町村社協に呼びかけ てきました。

また, 近年は, 「社協・生活支援活動強化方 針(行動宣言と第2次アクションプラン)」(以下、 「強化方針」という。)をとりまとめ、今日の地域 における深刻な生活課題や社会的孤立といった 地域福祉の課題に応える社会福祉協議会(以下, 「社協」という。)の事業・活動の方向性と具体的 な事業展開を提示するとともに、国から示され た 「社会福祉法に基づく市町村における包括的 な支援体制の整備に関する指針」及び「地域共生 社会の実現に向けた地域福祉の推進について」

を踏まえ、社協に求められる実践について、「地 域共生社会の実現に向けた社協の事業・活動の 展開に向けて」を示しました。

これらの指針・通知に基づき、各社協におい ては, 今後の地域づくりに向けた具体的な事業・ 活動を展開するために、今まで地域で担ってき た役割や事業・活動を改めて確認し、その再構 築やさらなる展開を図るための実践課題解決に あたって, 地域福祉活動計画及び発展・強化計 画を改定し、その実現に向けた取り組みを計画 的に進めることが重要です。

水戸市社会福祉協議会(以下,「水戸市社協」) においても、福祉のまち「水戸」の実現のために、 これまでの事業展開を振り返りながら、目指す べき地域の姿や事業・活動等の展望を主体的に 描き, 具体的な行動を実践として示す必要があ ります。

第1次計画,第2次計画を経て,この新たな 環境変化に対応するために、福祉分野の上位計 画として位置づけられた水戸市が策定する 「水 戸市地域福祉計画」と整合を図りながら、地域 住民,事業者,関係団体,ボランティア,行政 機関等が共通の目標を持ち、協働により地域福 祉の推進に取り組むための指針として「水戸市 地域福祉活動計画(第3次)」を策定するもので す。また,水戸市社協の中期的な行動計画であ る「水戸市社会福祉協議会発展・強化計画」を併 せて策定することによって、組織、財務、事業 等に関する具体的な取り組みを計画的に遂行し てまいります。

2 計画名

水戸市地域福祉活動計画については、平成25 年に制定した「みんなの福祉のまちづくり憲章」 に基づき、また、水戸市が策定する「水戸市地 域福祉計画」との混同を避けるため、通称を「福 祉のまちづくり推進計画」とします。

【計画の位置付け】

別紙のとおり

3 計画策定の基本的姿勢

水戸市地域福祉活動計画(福祉のまちづくり 推進計画)

(1)基本理念(目指す姿・基本的方向)

みんなのしあわせ地域いきいきプラン

~ふれあいと優しさあふれる福祉のまち「水戸」~

(2)基本目標

ア 誰もが支え合う新たな地域づくりの推進

- イ 一人ひとりが尊重される地域生活支援 体制の充実
- ウ 生活課題解決に向けたあらゆる機関と のパートナーシップの確立

4 計画の構成及び期間

(1)計画の構成

ア 水戸市地域福祉活動計画(福祉のまちづくり推進計画)

第1部 総論

第1章 第3次計画の概要(計画策定の趣 旨,計画の位置付け,計画期間, 推進体制,進行管理など)

第2章 これまでの計画の取り組みと評価

第3章 現況と課題

第2部 基本構想

第1章 基本理念(目指す姿, 将来像など)

第2章 基本目標(施策の基本的方向など)

第3章 基本計画(施策の体系など)

第3部 実施計画(具体的な施策, 取り組み など)

第1章 重点施策(主な担当課:総務企画課)

第2章 実施計画(主な担当課:地域福祉課)

第3章 実施計画(主な担当課:相談支援課)

第4章 実施計画(主な担当課:生活支援課)

第5章 実施計画(主な担当課:就労支援課)

イ 水戸市社会福祉協議会 発展・強化計画 (主な担当課:総務企画課)

第1章 計画の概要

第2章 これまでの計画の取り組みと評価

第3章 基本構想(運営理念・経営理念・ 経営目標・経営戦略・職員行動 指針等)

第4章 重点施策

第5章 実施計画

(2)計画の期間

新たな計画の期間は、全国社会福祉協議会の 指針に基づき、また、水戸市地域福祉計画(第3次)との整合性を考慮し、2020年度から2023 年度までの4か年とします。ただし、社会情勢 の変化や関係法令の改正等を踏まえ、必要に応 じて計画の見直しを行います。

5 計画策定の体制等

(1)市民参加(地域福祉活動計画の策定)

ア 地域福祉活動計画策定委員会

関係機関,関係団体,学識経験者などで構成する地域福祉活動計画策定委員会を開催し, 計画内容等の審議を行います。

イ みとの福祉を考える座談会(みとの福祉を 考える座談会参加者交流会含む)

平成27年度から29年度まで3か年にわたり開催したみとの福祉を考える座談会の討議結果を計画に反映します。

ウ 住民意識調査(市民アンケート)

水戸市地域福祉計画 (第3次) 策定に向けて 実施する市民へのアンケートの分析結果を共 有します。

エ 福祉員・福祉活動推進員意識調査(社協支 部アンケート)

社協支部活動を支える福祉員・福祉活動推 進員を対象としたアンケート調査を実施する ことによって、地域福祉を支える人々から見 た福祉課題を把握します。

オ 意見公募手続

地域福祉活動計画の素案に対して広く市民 の意見を計画に反映させるため、意見公募を 実施します。

(2)組織

ア 決定・承認会議

① 評議員会

理事会において協議,決定された計画に ついて承認を得ます。

② 理事会

地域福祉活動計画策定委員会において審議された水戸市地域福祉活動計画(福祉のまちづくり推進計画),検討会議においてまとめた水戸市社協発展・強化計画について協議し、計画を決定します。

イ 検討会議(本会職員で構成)

① 事業評価ワーキングチーム 水戸市地域福祉活動計画(福祉のまちづく

り推進計画)(第2次)及び水戸市社協発展・ 強化指針の事業評価作業を行います。

② 計画策定ワーキングチーム

水戸市地域福祉活動計画(福祉のまちづくり推進計画)(第3次)及び水戸市社協発展・強化計画の計画素案及び計画案の策定作業を行います。

東日本大震災の発生とその対応 被災者支援に災害ボランティアが活躍

2011年(平成23年)3月11日(金曜日)14時46分に発生した「東日本大震災」は、水戸市では震度6弱 を観測し、市内にも甚大な被害をもたらしました。水戸市社会福祉協議会は被災者が一日でも早く元の 生活を取り戻せるよう災害ボランティア活動対策本部を3月13日に設置して災害ボランティアを募り、 ひとり暮らし高齢者世帯等の被災者支援に当たりました。震災直後からたくさんの方々からボランティ ア登録を頂き、登録されたボランティアは3月31日までに600人を超え、ひとり暮らし高齢者宅の片づ けなどの活動を展開しました。

震災後,支援活動も一段落することができ、5月20日に災害ボランティア活動対策本部を閉所いたし ました。

「東日本大震災」 災害支援ボランティア活動から

3月11日の「東日本大震災」発生後、災害ボランティア対策本部はボランティアを募集し、市内を中 心に多くの個人, 団体の登録をいただきました。(3月31日現在 個人618名, 36団体)

活動当初はガソリン不足のため、被災者宅に近いボランティアが徒歩や自転車で訪問し、散乱した部 屋の整理、壊れた塀や瓦の片づけなどに当たりました。

災害ボランティアの応募動機としては、「友人に誘われ困っている人の役にたちたい | 「自分にも役に 立つことがあれば」などが聞かれ、参加してみて「技術がなくても自分の出来る範囲で活動した事が感謝 され、役にたてた実感がもてた(18歳学生)」「若い人たちが多く、一緒に活動できてうれしい(70代男性)」 などの感想が聞かれました。

今回、世代を超えて声を掛け合って活動する事も多く、被災された方々からも感謝の言葉が本部に寄 せられました。

●災害ボランティア活動対策本部の活動報告

平成23年3月13日から 平成23年5月20日 ≪設置期間≫

≪登録人数≫ 666名 (個人登録) 39団体(団体登録)

179件 ≪活動依頼件数≫

≪活動対応件数≫ 125件 (専門的な活動 危険を伴う活動を除く)

≪延べ活動者数≫ 577名

屋 内 テレビ・家具・食器棚などを起こし、台所・食器の片付け、 ≪活動内容≫

ガラスの片づけ, 漆喰壁の掃除

屋外落ちた瓦の片づけ、塀の片づけ(大谷石やブロックなど)

その他 救援物資の仕分け、本部運営



崩れた塀が道路に



被災者宅へ急ぐボランティア





ブロック塀の片づけ(高齢者世帯)



ボランティアの受付



災害ボランティア活動対策本部の活動

令和元年台風19号による災害発生と対応 被災者支援に多くの災害ボランティアが活躍

2019年(令和元年)10月11日(金曜日)に関東地方に上陸した台風19号は、関東地方や甲信地方、東 北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらしました。水戸市においても、栃木方面で前夜 まで降り続いた大雨により那珂川,藤井川をはじめとする多くの河川が越水又は決壊し,13学区の2,846 世帯が被災するなどの甚大な被害が発生しました。本会では、10月14日に水戸市災害ボランティアセ ンターを設置しボランティアの受付け及び被災世帯へのボランティア派遣を行うとともに、水戸市災害 対策本部や関係機関と連携した活動を行いました。

●水戸市災害ボランティアセンターの運営状況

≪設置期間≫ 令和元年10月14日から

水戸市福祉ボランティア会館(10/14~10/16) ≪設置場所≫

水戸市老人福祉センター長者山荘(10/17~)

飯富サテライト(旧水戸市飯富幼稚園内)(10/15~)

≪設置内容≫ 本部・総務班・ボランティア受付班・ニーズ受付班・

オリエンテーション班・マッチング班・車両班・資材班

≪登録人数≫ 2.909名(個人登録) 84団体(団体登録)1,082人

≪活動依頼件数≫ 276件

589件 (専門的な活動 危険を伴う活動を除く) ≪派遣対応件数≫

≪延べ活動者数≫ 4,353名

≪活動内容≫ 屋内の片づけ清掃・泥だし(生活道路・側溝)・家具類の搬出・ゴミ出し・ゴミの

分別・被災者宅の消毒剤撒布・物置倉庫内の整理及び水戸市災害対策本部からの

依頼活動(生活道路上のゴミの分別・ゴミ積み込み)など

≪連携≫ 水戸市災害対策本部・茨城県・茨城県社会福祉協議会・災害ボランティア活動支

援プロジェクト会議

≪協力≫ 水戸市災害ボランティアセンタースタッフとして活動

 $(10/16\sim)$

茨城県・茨城県社会福祉協議会・稲北ブロック内7社協・県西ブロック内10社協

開江老人ホーム延べ86名・末広老人福祉センター0名 ≪福祉避難所≫

≪要支援者支援≫ 車いす利用者の送迎延べ4名

≪入浴支援≫ 老人福祉センター長者山荘延べ60名・末広老人福祉センター延べ24名・障害者

デイサービスセンターあかつか延べ2名

≪ニーズの把握≫ 避難所(避難者)及び被災地域へのチラシ配布等による案内・ローラー作戦等の実施











受付からボランティア保険の加入など一連の手続きを行う



マッチングを経てそれぞれの活動へ出発



活動終了後、消毒手洗い等の順番を待つボランティアの皆さん





運営スタッフによるミーテング



法人化50周年記念誌

令和元年11月発行

〔発行・編集〕

社会福祉法人 水戸市社会福祉協議会

茨城県水戸市赤塚1-1 水戸市福祉ボランティア会館内

Tel.029-309-5001(代)